

問1 日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭りの道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 奈良時代 2. 弥生時代 3. 古墳時代 4. 縄文時代

問2 大陸からの技術伝来によって起きた、弥生時代の道具の変化に関する説明として正しいものはどれですか。（2018年 奈良県公立入試 類似）

1. 青銅が農具の主材料となり、それまで使われていた木製農具は全く使われなくなった。
2. 朝鮮半島から伝わった技術により、打製石器を加工して鉄のように鋭くする技法が確立した。
3. 石器から金属器への移行が進み、実用的な道具には主に鉄が用いられるようになった。
4. 中国から伝わった鉄を使い、日本独自の文化である縄文土器の文様がより複雑になった。

問3 佐賀県で発見された、弥生時代の大規模な環濠集落の跡として知られる遺跡について述べた文として、適切なものはどれですか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）

1. 縄文時代の集落跡であり、大型の竪穴住居やクリの栽培跡が確認されている。
2. 戦国時代から江戸時代にかけて銀の採掘が行われた、世界遺産に登録されている遺跡である
3. 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。
4. 相沢忠洋によって発見された、日本に旧石器時代が存在したことを証明する遺跡である。

問4 弥生時代、大陸から金属器が伝わったことで人々の生活は大きく変化しましたが、当時の「青銅器」の主な用途と代表的な道具の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2018年 大阪府公立入試 類似）

1. 鋭利な刃物として戦闘に用いられ、剣や矛などの武器の主流となった。
2. 食料を保存・調理するための容器として用いられ、須恵器などが作られた。
3. 頑丈な農具として開墾に用いられ、すきや鍬（くわ）の先などが作られた。
4. 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。

問5 邪馬台国の女王である卑弥呼は、239年に中国の魏へ使節を送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。卑弥呼がこのように中国の王朝と外交関係を結んだ主な政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 徳島県公立入試 類似）

1. 魏で施行されていた律令制度を学び、日本で最初の本格的な法治国家を建設するため
2. 魏から金銀などの貴金属を輸入し、国内で独自貨幣の発行を開始するため
3. 朝鮮半島南部にある任那の日本府を維持するために、魏へ軍事支援を要請するため
4. 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため

問6 1世紀頃、日本（倭）の小国の王が中国の漢（後漢）の皇帝に使いを送り、皇帝から臣下として認められた証として授けられたとされる金印には、どのような文字が刻まれていますか。（2019年 長野県公立入試 類似）

1. 親魏倭王 2. 漢委奴国王 3. 卑弥呼 4. 志賀島

問7 1世紀半ばに日本の「奴国」の王が中国へ使者を送り、皇帝から金印を授かったという出来事が記されている、当時の中国の歴史書として正しいものを答えなさい。（2016年 大阪府公立入試 類似）

1. 後漢書 2. 史記 3. 魏志 4. 日本書紀

問8 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。
2. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。
3. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。
4. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。

問9 弥生時代、稲作の普及によって余剰生産物が生まれると、富を蓄えた有力者が現れ、各地に小規模な政治集団である「国」が形成されました。当時の倭（日本）の有力な王は、中国の王朝から自らの地位を正式に認められることで、周辺諸国に対する権威を高めようとしてしました。西暦57年に、倭の「奴国」の王が中国の後漢の皇帝から授かった、その地位を証明するための品物として正しいものを選びなさい。（2018年 神奈川県公立入試 類似）

1. 「漢委奴国王」と刻まれた金印 2. 三角縁神獣鏡 3. 稻荷山古墳から出土した鉄剣 4. 仏像や経典

問10 表面に当時の生活の様子や動植物、流水文などの模様が描かれ、上部に「鈕（ちゅう）」と呼ばれる持ち手のような部分がついている、弥生時代の祭祀用青銅器の名称は何か。（2026年 新潟県公立入試 類似）

1. 銅戈 2. 埴輪 3. 銅鐸 4. 銅矛

問11 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2022年 広島県公立入試 類似）

1. 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。
2. 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。
3. 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。
4. 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。

問12 1世紀頃の東アジアにおいて、中国の皇帝が周辺国の支配者に対して「みつぎ物」の見返りとして「称号」や「印」などを与える国際秩序がありました。倭の王が中国へ使いを送った歴史的背景や目的として最も適切な説明はどれですか。（2019年 長野県公立入試 類似）

1. 仏教などの新しい宗教を中国から正式に導入し、国を治めるための思想として活用しようとした。
2. 中国と対等な立場で外交関係を築き、軍事的な同盟を結ぶことで領土を拡大しようとした。
3. 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。
4. 朝鮮半島北部の小国として、中国の強力な武力による直接支配から逃れるための許可を求めた。

問13 3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。（2020年 徳島県公立入試 類似）

1. 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた
2. 狗奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した
3. 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた
4. 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った

答え合わせ・解説

問1	答え 2 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稻耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭祀具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問2	答え 3 石器から金属器への移行が進み、実用的な道具には主に鉄が用いられるようになった。	大陸からの技術伝来により、それまでの石器を中心とした生活から、金属器（鉄器・青銅器）を利用する生活へと変化しました。これを技術革新と呼びます。鉄は非常に実用性が高く、農具や工具、武器として社会を支える基盤となりました。この変化は、食料生産の増加や集落間の争い、さらには社会の階層化にもつながる重要な転換点となりました。
問3	答え 3 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。	吉野ヶ里遺跡は佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡です。この遺跡では、防御のための堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されており、復元された物見やぐらや、祭祀に使われたと考えられる銅鐸などの青銅器が出土しているのが特徴です。選択肢にある縄文時代の集落は三内丸山遺跡、旧石器時代の遺跡は岩宿遺跡、銀山は石見銀山遺跡を指しています。
問4	答え 4 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。	弥生時代には鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりましたが、それぞれの金属の特性に応じて使い分けがなされました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用品として普及しました。一方、青銅器は美しい光沢を持つことから、神をまつる際の祭祀具や、村の権威を示すための道具として使われました。
問5	答え 4 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため	邪馬台国は、南に位置する狗奴国と激しく対立していました。卑弥呼は当時、中国で強大だった魏の皇帝から公式に「倭の王」として認められることで、その権威を背景に国内の統治を固め、対立勢力に対して有利な立場を得ようとしたと考えられています。これは当時の東アジアにおける国際秩序を利用した外交戦略でした。
問6	答え 2 漢委奴国王	1世紀（西暦57年）に倭の奴国の王が後漢の光武帝に朝貢した際、皇帝から授けられたものです。この金印には「漢の委（倭）の奴の国の王」を意味する文字が刻まれており、当時の中国が周辺の支配者に称号や印を与えて地位を認める国際秩序（冊封体制）の一部であったことを示しています。
問7	答え 1 後漢書	西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から金印を授かった事実は『後漢書』東夷伝に記されています。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」の金印は、この記述を裏付ける重要な史料となりました。3世紀の卑弥呼について記された『魏志』倭人伝とは時代が異なるため、区別が必要です。
問8	答え 3 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。	稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。
問9	答え 1 「漢委奴国王」と刻まれた金印	稲作が広まった弥生時代には、食料の蓄えや土地を巡って「争い」が起きようになり、集団を統合するリーダー、つまり「王」が現れました。当時の中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、倭の奴国の王が後漢の光武帝に使いを送り、金印を授かったことが記されています。この金印は江戸時代に現在の福岡県（志賀島）で発見されており、当時の日本が中国の王朝と外交関係を持っていたことを裏付ける重要な資料です。
問10	答え 3 銅鐸	銅鐸は、その形状から「鐘」のような役割を持っていたと推測されています。初期のものは音を鳴らすために小規模でしたが、時代が下るにつれて大型化し、村の祭りで見せるための宝物としての性格が強めていきました。
問11	答え 2 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。	弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。
問12	答え 3 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。	当時の倭の王は、東アジアで圧倒的な権威を持っていた中国の皇帝に「朝貢」し、その臣下として認められる（冊封を受ける）ことで、自らの支配の正当性を強化しようとした。これは対等な外交ではなく、中国を中心とした主従関係に基づく国際秩序の中に組み込まれることを意味しています。
問13	答え 3 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を収拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。

問1	1世紀頃、日本（倭）の小国の王が中国の漢（後漢）の皇帝に使いを送り、皇帝から臣下として認められた証として授けられたとされる金印には、どのような文字が刻まれていますか。（2019年 長野県公立入試 類似）			
	1. 漢委奴国王	2. 志賀島	3. 卑弥呼	4. 親魏倭王
問2	弥生時代における「ムラ同士の争い」は、その後の日本の社会構造にどのような変化をもたらしましたか。当時の社会の流れとして最も適切な説明を選びなさい。（2024年 北海道公立入試 類似）			
	1. 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された	2. 争いを避けるために人々が再び移動生活に戻り、定住する集落が一時的に消滅した	3. すべての人が平等に食料を分配する仕組みが作られ、身分の差が完全になくなった	4. 争いを鎮めるために、各集落が完全に独立したまま交流を断つ鎖国のような状態になった
問3	3世紀の中国の歴史書において、邪馬台国の女王卑弥呼が30ほどの小国を従え、倭の王として交流したことが記されている当時の中国の王朝名を答えなさい。（2023年 山形県公立入試 類似）			
	1. 魏	2. 漢	3. 隋	4. 秦
問4	縄文時代に続く弥生時代に使われた土器は、それ以前の縄文土器と比べて薄くて硬く、赤褐色をしていることが多いという特徴があります。この土器の名称として正しいものはどれか。（2016年 鳥取県公立入試 類似）			
	1. 須恵器	2. 弥生土器	3. 土師器	4. 黒色土器
問5	日本の「奴国」が中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀前後の、日本と世界の情勢について述べた文として、背景や関連性が正しいものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）			
	1. 奴国の王は、イスラム教の影響を受けた後漢の制度を取り入れるために金印を求め、パレスチナでは十字軍の遠征が始まっていた。	2. 奴国の王は、インダス文明との交易を有利に進めるために後漢へ使者を送り、同時期に中国では仏教が日本へ伝来した。	3. 奴国の王は、織田信長が行った楽市・楽座のような自由貿易を求めて後漢と交渉し、同時期のヨーロッパでは大航海時代が幕を開けていた。	4. 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。
問6	江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印や、3世紀の歴史書に記された卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かったという記述は、当時の日本と中国のどのような関係を示していますか。（2021年 茨城県公立入試 類似）			
	1. 中国の皇帝が日本の優れた統治体制に学び、日本の王に中国の政治顧問を依頼した関係	2. 日本と中国が対等な立場での自由貿易を約束し、称号の交換を経済的な儀礼とした関係	3. 日本が中国の王朝に対して軍事的な圧力をかけ、金印や称号を無理やり奪い取った関係	4. 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係
問7	1世紀半ばの日本（倭）において、九州にあった奴国の王が中国の王朝に使者を送り、皇帝から金印を授けられたという記録が中国の歴史書に残されています。このとき、奴国の王に金印を授けた中国の王朝として正しいものを次の中から選びなさい。（2026年 山口県公立入試 類似）			
	1. 魏	2. 秦	3. 漢	4. 隋
問8	弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった金属器のうち、硬くて鋭利な特徴を活かして、木工具や農具、武器などの実用的な道具として広く普及したものは何ですか。（2016年 大阪府公立入試 類似）			
	1. 石器	2. 土器	3. 鉄器	4. 青銅器
問9	弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 滋賀県公立入試 類似）			
	1. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。	2. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。	3. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。	4. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。
問10	『魏志』倭人伝などの中国の歴史書に記述が見られ、3世紀ごろに争乱が続いていた倭国を治めるため、邪馬台国の女王として共立された人物は誰か。（2016年 北海道公立入試 類似）			
	1. 持統天皇	2. 神功皇后	3. 推古天皇	4. 卑弥呼
問11	兵庫県神戸市の桜ヶ丘町などで出土した、釣り鐘のような独特の形をした弥生時代の青銅器について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この青銅器の表面には、当時の生活の様子や幾何学的な文様が描かれていることがあります。（2021年 大阪府公立入試 類似）			
	1. 魏の皇帝から邪馬台国の女王に贈られたとされる銅鏡である	2. 縄文時代の集落で見つかる、魔除けのために作られた土偶である	3. 古墳の副葬品として納められた、馬に装着する鉄製の装具である	4. 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である
問12	弥生時代に大陸から稲作が伝わり、食料を蓄えることが可能になったことで生じた社会の変化について、最も適切な説明を選んでください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）			
	1. 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。	2. 政府から農民へ平等に土地が割り当てられ、収穫した稲を税として納める制度が整った。	3. ナウマン象などの大型動物を狩猟するために、人々は移動を繰り返しながら生活するようになった。	4. 表面に縄目の文様がある、厚手で黒褐色の土器が全国的に作られるようになった。
問13	弥生時代の遺跡からは、中央に2つの穴が開いた半月形の石器が数多く出土します。この道具を用いた当時の収穫方法と、その特徴について説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）			
	1. 石器の鋭い側面を使い、脱穀のために稲の茎から籾をこすり落としていた。	2. 複数の石器を組み合わせ土を掘り起こし、田植えの前の耕作に使用していた。	3. 穴に長い木の柄を取り付け、稲を根元から一気に刈り取る「根刈り」を行っていた。	4. 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 漢委奴国王	1世紀（西暦57年）に倭の奴国の王が後漢の光武帝に朝貢した際、皇帝から授けられたものです。この金印には「漢の委（倭）の奴の国の王」を意味する文字が刻まれており、当時の中国が周辺の支配者に称号や印を与えて地位を認める国際秩序（冊封体制）の一部であったことを示しています。
問2	答え 1 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された	土地や水をめぐる争いは、勝利した集落が敗北した集落を吸収・統合するプロセスでもありました。これにより、複数の「ムラ」が統合されて「クニ」へと大規模化し、その中心に王のような強力な指導者が現れることで、初期の国家形成へとつながっていきました。
問3	答え 1 魏	3世紀前半の日本（倭）の様子を伝える『魏志倭人伝』は、中国の三国時代における王朝の一つである「魏」の歴史書です。この書物には、邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かったことが詳しく記されています。選択肢にある漢は紀元前後の、隋は6世紀末からの王朝であり、時代が異なります。
問4	答え 2 弥生土器	弥生土器は、紀元前4世紀頃から始まった弥生時代に使用された土器です。縄文土器が厚手で、比較的低い温度で焼かれたのに対し、弥生土器はより高い温度で焼かれることで、実用性に優れた薄くて丈夫な作りになっています。
問5	答え 4 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。	当時の小国の王が中国（後漢）の皇帝に使者を送り金印を授かったのは、中国の権威を背景に周辺諸国に対して自国の地位を有利にする目的がありました。この紀元1世紀という時期は、西洋においてはローマ帝国の統一とイエスによるキリスト教の創始という、その後の世界史に大きな影響を与える出来事が重なっています。インダス文明は古代、イスラム教や十字軍、大航海時代などはより後世の出来事であり、奴国の時代背景とは一致しません。
問6	答え 4 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係	1世紀には奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、3世紀には邪馬台国の卑弥呼が魏から「親魏倭王」の称号と金印などを授かりました。これらは、中国の皇帝から「位」を認めてもらうことで、国内の他の勢力に対して自らの権威を誇示しようとした外交の形を証明しています。
問7	答え 3 漢	中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から印綬（金印）を授かったことが記されています。この金印は、江戸時代に福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の文字が刻まれたものと一致すると考えられています。設問にある1世紀という時期は、中国では漢（後漢）の時代にあたります。
問8	答え 3 鉄器	大陸から伝わった金属器には鉄器と青銅器がありますが、その性質の違いによって用途が分かれていました。青銅器が主に祭りや儀式的の道具として用いられたのに対し、鉄器は木材を加工する工具や、土地を耕すための農具、戦いのための武器といった実用的な用途で使われました。これにより食料の生産力が大幅に向上しました。
問9	答え 4 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問10	答え 4 卑弥呼	3世紀の邪馬台国において、呪術的な力を用いて国を治めたとされる女王です。中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。推古天皇は飛鳥時代の最初の女帝、持統天皇は飛鳥時代後半の女帝であり、時代が異なります。
問11	答え 4 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である	釣り鐘状の青銅器は銅鐸と呼ばれ、弥生時代の文化を象徴する遺物です。銅鐸の表面には、当時の人々が狩りをする姿や、高床倉庫、稲作の様子などが浮き彫りで描かれているものがあり、文字のない時代の生活を知るための重要な手がかりとなっています。縄文時代の土偶や、古墳時代の鉄製武器とは時代や特徴が異なります。
問12	答え 1 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。	稲作が普及すると、生産力の向上により食料の蓄え（余剰生産物）ができるようになりました。これにより、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれるとともに、稲作に不可欠な土地や水の利権をめぐって集落（ムラ）同士の争いが発生するようになりました。こうした争いを通じて、次第に多くのムラを統合する小国が形成されていきました。
問13	答え 4 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。	当時の稲は現在の品種とは異なり、一斉に実るのではなく時期にばらつきがあったと考えられています。そのため、石包丁を用いて熟した穂だけを丁寧に選んで摘み取る「穂首刈り」という収穫方法がとられていました。中央の2つの穴は、作業中に道具が手から落ちないように、植物の繊維などで作った紐を通して指に固定するための工夫です。

- 問1 弥生時代に大陸から伝えられた金属器のうち、銅鐸や銅剣などの青銅器は、主にどのような目的で使用されていたと考えられますか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた | 2. 食物を煮炊きたり、貯蔵したりするための生活容器として用いられた | 3. 土地を耕したり木を加工したりする実用的な工具として用いられた | 4. 都の東西に置かれた市で、布や米と交換される通貨として用いられた |
|------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
- 問2 奈良県にある唐古・鍵遺跡のような、周囲を深い濠（ほり）で囲んだ「環濠集落」からは、高床の建物が描かれた土器などが出土しています。このように、集落の周りに濠を巡らせた主な目的と、この時代の近畿地方において主に祭祀（お祭り）の道具として使われていた青銅器の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 目的：水害から住居を守るため／青銅器：はにわ | 2. 目的：水害から住居を守るため／青銅器：銅鐸 | 3. 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため／青銅器：土偶 | 4. 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため／青銅器：銅鐸 |
|---------------------------|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
- 問3 弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|
| 1. 土を掘り返して苗を植えるために用いられた | 2. 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた | 3. 稲を根元から刈り取るために用いられた | 4. 収穫した後の脱穀を行うために用いられた |
|-------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|
- 問4 1世紀半ば、日本の小国の一つであった奴国の王が、中国の王朝である後漢へ使者を送った時期の社会状況として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 巨大な前方後円墳が築造されるようになり、その周囲には死者を供養するための埴輪が並べられた。 | 2. 狩猟や採集を生活の中心とし、ナウマンゾウなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていた。 | 3. 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。 | 4. 仏教による国家の安定を図るため、聖武天皇の命によって全国各地に国分寺や国分尼寺が建立された。 |
|--|--|--|---|
- 問5 佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡では、居住エリアの周囲を二重の濠（ほり）や高い柵が囲んでおり、外敵を監視するための物見櫓（ものみやぐら）の跡も見つかっています。この遺跡の名称と特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------|-----------------------|--------------------------|----------------------|
| 1. 登呂遺跡 — 仏教寺院が建立された集落 | 2. 三内丸山遺跡 — 縄文時代の巨大集落 | 3. 板付遺跡 — 広場に川が流れる開放的な集落 | 4. 吉野ヶ里遺跡 — 大規模な環濠集落 |
|------------------------|-----------------------|--------------------------|----------------------|
- 問6 歴史上の出来事を整理する際、100年単位の「世紀」という区分が用いられます。例えば、西暦300年という年は、何世紀の終わりの年にあたりますか。 (2023年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 1. 30世紀 | 2. 3世紀 | 3. 2世紀 | 4. 4世紀 |
|---------|--------|--------|--------|
- 問7 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 (2025年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------|-------------------------|---------------------|----------------------------|
| 1. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符 | 2. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀 | 3. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡 | 4. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印 |
|------------------------------|-------------------------|---------------------|----------------------------|
- 問8 3世紀の中国（魏）の歴史書には、当時の日本の様子が記述されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から授かった称号と品物の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------|---------------|------------------|-------------------|
| 1. 漢委奴国王の称号と、金印 | 2. 倭王武の称号と、鉄剣 | 3. 征夷大將軍の称号と、刀や鎧 | 4. 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡 |
|-----------------|---------------|------------------|-------------------|
- 問9 弥生時代の遺跡の復元資料において、茅（かや）などの植物で葺かれた屋根が地面に接するほど低く設置され、地面を掘り下げて基礎としている住居が見られます。この住居と、同じ時代に稲などを保管するために作られた「高床倉庫」の構造上の最大の違いは何ですか。 (2018年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|--|--------------------------------------|---|
| 1. 住居は円形のものしかないが、倉庫はすべて三角形の形をしている | 2. 住居は木材を一切使わずに石だけで作られているが、倉庫は木材を中心に作られている | 3. 住居は瓦で屋根を葺いているが、倉庫は茅や草を用いて屋根を葺いている | 4. 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている |
|-----------------------------------|--|--------------------------------------|---|
- 問10 当時の日本（倭）では多くの小国が分立して争いが続いていたことが中国の歴史書に記されています。このような状況下で、邪馬台国の卑弥呼が魏に使節を送り、皇帝との外交関係を築いた主な目的は何ですか。 (2019年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 魏の進んだ鉄器製造技術を独占することで軍力を高め、武力によって一気に日本列島を統一するため | 2. 大陸で広く信仰されていた仏教を日本に導入することで、宗教の力によって国内の戦乱を鎮めるため | 3. 魏が定めていた律令などの法律や官僚制度を取り入れ、天皇を中心とする中央集権国家の仕組みを整えるため | 4. 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため |
|--|--|--|--|
- 問11 弥生時代の生活の様子を描いた資料には、人々が稲の収穫作業を行い、その背景に柱の高い建築物が建てられている様子が見られます。収穫したコメを湿気や害獣から守るために、床を高くし「ネズミ返し」と呼ばれる板を柱に取り付けるなどの工夫を施したこの建築物の名称を答えなさい。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-------|---------|----------|
| 1. 高床倉庫 | 2. 貝塚 | 3. 環壕集落 | 4. たて穴住居 |
|---------|-------|---------|----------|
- 問12 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、集落の周囲に深い濠（ほり）や土塁を巡らせた「環濠集落」の代表例として知られています。このような大規模な防衛施設を持つ集落が弥生時代に造られるようになった社会的な背景として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1. 頻発する大規模な洪水や高潮から、住居や高床倉庫の浸水を防ぐ必要があったため | 2. 仏教の伝来にともない、寺院を中心とした聖域を保護する必要が生じたため | 3. 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため | 4. 狩猟や採集の効率を上げるために、獲物となる動物を追い込む囲いが必要だったため |
|--|---------------------------------------|---------------------------------------|---|
- 問13 3世紀頃の日本の様子について記された歴史書に関連して、女王卑弥呼が中国の王朝である魏に使者を送った際、魏の皇帝から授けられた称号と金印の内容として正しいものを次の中から選びなさい。 (2019年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|---------------|
| 1. 「親魏倭王」の称号と金印 | 2. 「征夷大將軍」の宣旨 | 3. 「日本国王」の金印と勘合 | 4. 「漢委奴国王」の金印 |
|-----------------|---------------|-----------------|---------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた	弥生時代に鉄器とともに大陸から伝わった青銅器は、鉄器が武器や工具として実用的に使われたのに対し、銅鐸や銅剣などは音を鳴らしたり飾ったりする祭礼用の道具として用いられました。稲作の普及にとともに、豊作を祈るなどの集団の儀式が重要になった背景があります。なお、食物を煮炊きする道具としては、この時代は弥生土器が、のちの時代には須恵器などが用いられました。
問2	答え 4 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため／ 青銅器：銅鐸	弥生時代の遺跡に見られる「環濠集落」は、稲作が始まり蓄えができたことで発生した、集落同士の争いに備えた防御施設としての性質を持っています。奈良県の遺跡から出土した建物が描かれた土器などは、当時の生活の様子を伝える貴重な情報源です。また、この時代には大陸から青銅器の技術が伝わりましたが、特に近畿地方では鐘のような形をした「銅鐸」が作られ、豊作を祈るなどの祭りの道具として用いられました。土偶は縄文時代の呪術的な道具、はにわは古墳時代に古墳に並べられたものです。
問3	答え 2 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた	弥生時代前期の収穫方法である「穂首刈り」に関する問いです。当時は稲が実る時期が一定ではなかったため、実った稲の穂だけをつづつ石包丁で摘み取っていました。根元から刈り取る方式は、後に鉄製の鎌が普及するまで一般的ではありませんでした。
問4	答え 3 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。	紀元前後の弥生時代には、大陸から稲作技術や金属器（青銅器・鉄器）が伝来し、生産力が向上しました。これに伴い、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる集落同士の争いが発生し、各地に小国が形成されました。奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは、こうした国内の勢力争いの中で中国の王朝を後ろ盾にしようとする意図があったと考えられています。
問5	答え 4 吉野ヶ里遺跡 ― 大規模な環濠集落	佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、復元された高い柵や深い濠、そして大規模な物見櫓の跡から、当時の極めて高い防御意識がうかがえる代表的な環濠集落です。これは、当時の社会が「クニ」へとまとまっていく過程で、集落間の抗争が激しかったことを裏付ける重要な史跡です。
問6	答え 2 3世紀	世紀の計算は西暦1年を起点として100年ごとに区切るため、各世紀の終わりの年は必ず100の倍数になります。1世紀は1年～100年、2世紀は101年～200年となるため、201年から始まった3世紀は、300年をもってその区切りを迎えることになります。301年からは4世紀に入ります。
問7	答え 3 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授かりました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。
問8	答え 4 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡	中国の歴史書（魏志倭人伝）によると、3世紀に邪馬台国の卑弥呼が魏へ使いを送り、朝貢を行いました。その際、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号とともに、その証となる金印や100枚の銅鏡などの返礼品を授けられたと記されています。なお、1世紀（紀元57年）に後漢の光武帝から金印を授かったのは奴国の王であり、混同しないよう注意が必要です。
問9	答え 4 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている	たて穴住居は地面を掘り下げて床を作ることによって住空間を確保していましたが、収穫した稲を保管する高床倉庫は、湿気やネズミなどの害を防ぐために床を地面から高く離れた構造をとっていました。同じ集落内であっても、目的によって構造が明確に使い分けられていたことがわかります。
問10	答え 4 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため	弥生時代の日本列島は、多くの小国が争う「倭国大乱」と呼ばれる混乱期にありました。卑弥呼は、大陸の強国である魏から公式に「倭の王」として認められることで、自らの地位の正当性を高めようとした。授かった金印や銅鏡を国内の有力者に分け与えることは、自らの権威を可視化し、他の小国を従わせるための高度な外交手段でした。なお、仏教の伝来や律令の導入は後の飛鳥時代以降の出来事です。
問11	答え 1 高床倉庫	弥生時代には大陸から伝わった稲作が東日本を含む日本各地に広まり、食料を保存する必要が生じました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気を防ぎ、コメが腐るのを防ぐとともに、柱の途中に板を取り付けることでネズミなどの害獣が侵入するのを防ぐ仕組みを持っていました。
問12	答え 3 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため	弥生時代に大陸から本格的な水稻耕作が伝わると、収穫物の余剰を蓄える「富」が生まれ、それを奪い合う争いが始まりました。吉野ヶ里遺跡に見られる深い濠や逆茂木（さかもぎ）、物見やぐらなどの施設は、敵の侵入を防ぎ、共同体の財産や命を守るために発達した軍事・防衛的な工夫です。
問13	答え 1 「親魏倭王」の称号と金印	3世紀に邪馬台国を治めていた女王の卑弥呼は、中国の三国時代における王朝の一つである魏に使者を送りました。これに対し魏の皇帝は、卑弥呼を倭の王として認め、「親魏倭王」の称号と金印、さらに多数の銅鏡などを贈りました。1世紀（西暦57年）に奴国の王が後漢の皇帝から授かった「漢委奴国王」の金印と混同しないよう注意が必要です。

問1 弥生時代の社会における銅鐸の特徴や役割について述べた文として、正しいものを選びなさい。（2023年 三重県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 大陸との交易を円滑に進めるために、重さに応じた価値を持つ貨幣として使われた | 2. 鉄器よりも硬度が高いという性質を活かし、木を伐採するための工具として普及した | 3. 次第に大型化し、表面には当時の生活や自然を反映した装飾が施されるようになった | 4. 各個人の家の中に置かれ、日常的に家族の健康を祈るための仏具として使われた |
|--|---|---|---|

問2 弥生時代の代表的な遺跡である佐賀県の吉野ヶ里遺跡について、その集落の構造を説明した記述として最も適切なものを次から選びなさい。（2023年 佐賀県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 交易を円滑にするため、海岸線に沿って長い石垣が築かれ、港の機能を中心としている。 | 2. 大規模な公共事業を行うため、周囲の山を削って平地を作り、規則正しく住居が並んでいる。 | 3. 外敵の侵入や攻撃を防ぐため、集落の周囲に深い溝（濠）を掘り、さらに柵を巡らせている。 | 4. 収穫した稲をネズミや湿気から守るため、床を高くした高床倉庫が集落の中心に配置されている。 |
|---|---|---|---|

問3 福岡県の志賀島で発見された金印には、正方形の印面に「漢委奴国王」の五文字が刻まれており、つまみの部分は蛇を模した形状（蛇鈕）となっています。この金印を奴国の王が後漢の皇帝から授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 高山県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. モンゴル民族の侵攻に対抗するため、大陸の軍隊に日本列島までの援軍を要請したため | 2. 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため | 3. 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を得るための事前交渉として、大陸との友好関係を築くため | 4. 大陸から仏教を公式に導入するための許可を得て、国内の宗教的な統一を図ろうとしたため |
|--|--|---|--|

問4 弥生時代に製作された青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面には当時の生活の様子や動物の文様が刻まれている「銅鐸（どうたく）」は、主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--------------------------------|---|
| 1. 集落間の戦いにおいて、敵を攻撃したり威嚇したりする武器として用いられた | 2. 収穫した穀物を煮炊きしたり、保存したりするための調理器具として用いられた | 3. 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた | 4. 衣服を織るための繊維を整えたり、糸を紡いだりするための機織り用の道具として用いられた |
|--|---|--------------------------------|---|

問5 弥生時代に稲作が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を外敵からの攻撃から守るために、周囲に深い堀を掘り、木の柵を設置した集落を何と呼びますか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|-----------|----------|
| 1. 高床倉庫 | 2. 環濠集落 | 3. 三内丸山遺跡 | 4. 石舞台古墳 |
|---------|---------|-----------|----------|

問6 3世紀の日本の様子を伝える中国の歴史書『魏志倭人伝』の記述に基づき、当時の社会や統治の状況として正しい説明はどれですか。（2022年 長野県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|---------------------------------------|--|
| 1. 聖徳太子が冠位十二階を定め、家柄にとらわれず才能のある人物を役人に登用した。 | 2. 墾田永年私財法が制定され、新しく開墾した土地を永久に自分のものにすることが認められた。 | 3. 唐から来日した鑑真が仏教の戒律を伝え、国内の寺院の整備が進められた。 | 4. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、乱れていた多くの国をまとめ、約30の国を従えていた。 |
|---|--|---------------------------------------|--|

問7 弥生時代の遺跡で見つかる特徴のうち、当時の社会において集団間の緊張や争いがあったことを最も直接的に示しているものはどれですか。（2021年 愛知県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 収穫した稲の穂を効率よく摘み取るために使用された、平らな石に穴を開けた石包丁 | 2. 湿気やネズミの被害から穀物を守るために、柱にねずみ返しを設けた床の高い建物 | 3. 集落を二重、三重に囲む深い堀や、尖った杭を並べた逆茂木（さかもぎ）の跡 | 4. 祭祀や宝物として用いられたと考えられる、複雑な文様が描かれた青銅製の銅鐸や銅鏡 |
|---|--|--|--|

問8 弥生時代の生活の様子を描いた資料には、人々が稲の収穫作業を行い、その背景に柱の高い建築物が建てられている様子が見られます。収穫したコメを湿気や害獣から守るために、床を高くし「ネズミ返し」と呼ばれる板を柱に取り付けるなどの工夫を施したこの建築物の名称を答えなさい。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------|-------|---------|---------|
| 1. たて穴住居 | 2. 貝塚 | 3. 環壕集落 | 4. 高床倉庫 |
|----------|-------|---------|---------|

問9 1世紀に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かった背景として、当時の小国の王たちの目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 大阪府公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|---------------------------------------|
| 1. 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。 | 2. 中国からの軍事支援を直接受け、近隣諸国を武力で一気に統一しようと考えたため。 | 3. 遣隋使や遣唐使のように、進んだ律令制度を学び取り、日本独自の憲法を制定するため。 | 4. 仏教などの新しい宗教を中国から導入し、国民の精神的な団結を図るため。 |
|--|---|---|---------------------------------------|

問10 佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡では、居住エリアの周囲を二重の濠（ほり）や高い柵が囲んでおり、外敵を監視するための物見櫓（ものみやぐら）の跡も見つかっています。この遺跡の名称と特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）

- | | | | |
|------------------------|-----------------------|----------------------|--------------------------|
| 1. 登呂遺跡 — 仏教寺院が建立された集落 | 2. 三内丸山遺跡 — 縄文時代の巨大集落 | 3. 吉野ヶ里遺跡 — 大規模な環濠集落 | 4. 板付遺跡 — 広場に川が流れる開放的な集落 |
|------------------------|-----------------------|----------------------|--------------------------|

問11 佐賀県の吉野ヶ里遺跡などの墳丘墓から出土する「細形銅剣」をはじめとした青銅器の性格について述べた文として、歴史的な事実と合致するものはどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------------------------------------|---|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 弥生時代を通じて、一貫して実戦での殺傷能力を追求した武器であった | 2. 調理や食事を円滑に進めるために開発された、一般庶民の日常生活用具であった | 3. 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭りに用いられた | 4. 鉄器に比べて硬度が高かったため、土木工事の道具として普及した |
|-------------------------------------|---|---------------------------------------|-----------------------------------|

問12 弥生時代に大陸から伝わり、日本の社会を大きく変化した稲作の広がりについて述べた文として、正しいものはどれか。（2023年 佐賀県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 稲作は日本全土に均一に広まり、北海道や沖縄においてもこの時期に大規模な水田開発が行われた。 | 2. 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。 | 3. 稲作の普及により、それまで使われていた打製石器がすべて消失し、すべてが青銅器や鉄器に置き換わった。 | 4. 稲作が伝わった直後に大王（おおきみ）と呼ばれる強力な支配者が現れ、全国の開墾を命令した。 |
|--|---|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 次第に大型化し、表面には当時の生活や自然を反映した装飾が施されるようになった	青銅器は、鉄器に比べると柔らかいという性質があるため、実用的な工具や武器よりも、権威を示す宝物や祭りの道具として発展しました。銅鐸は時代が下るにつれて、音を鳴らすためのものから「見るためのもの」へと大型化し、表面には狩猟や農耕の様子など、当時の社会を映し出す絵画的な装飾が見られるようになります。
問2	答え 3 外敵の侵入や攻撃を防ぐため、集落の周囲に深い溝（濠）を掘り、さらに柵を巡らせている。	弥生時代に稲作が普及すると、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を敵から守るために、周囲に「濠（ほり）」と呼ばれる深い溝を掘ったり、木製の「柵」を立てたりする防御的な構造が取られました。このような集落を「環濠集落」と呼び、佐賀県の吉野ヶ里遺跡はその大規模な例として知られています。
問3	答え 2 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため	当時の倭（日本）は多くの小国に分かれていました。奴国のような有力な国の王は、中国の皇帝に使節を送って「臣下」となる代わりに、王としての正当性を認めてもらう（冊封を受ける）ことで、国内や周辺諸国に対する権威を強化しようとしていました。仏教の伝来や卑弥呼の登場、モンゴルの侵攻はすべて後の時代の出来事です。
問4	答え 3 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた	銅鐸は、弥生時代を代表する青銅器の一つです。当初はつり下げて鳴らす楽器として使われていたと考えられていますが、次第に大型化し、豊作を祈るための祭礼や儀礼において重要な役割を果たす「祭祀具（さいしぐ）」として用いられるようになりました。表面に刻まれた鹿や農耕の様子などの文様は、当時の生活や信仰を知るための貴重な史料となっています。
問5	答え 2 環濠集落	弥生時代には、食料の備蓄や土地の所有をめぐって集落間での争いが生じました。そのため、集落の防御機能を高めるために周囲を堀や柵で囲む工夫がなされました。代表的な遺跡として、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が有名です。
問6	答え 4 邪馬台国の女王である卑弥呼が、乱れていた多くの国をまとめ、約30の国を従えていた。	『魏志倭人伝』は3世紀の日本の様子を記した中国の歴史書です。そこには、倭（日本）でそれまで続いていた争いが収まり、卑弥呼という女王が邪馬台国を中心として約30の国々を従えて統治していたことが記されています。他の選択肢にある冠位十二階は7世紀（飛鳥時代）、鑑真の来日や墾田永年私財法は8世紀（奈良時代）の出来事です。
問7	答え 3 集落を二重、三重に囲む深い堀や、尖った杭を並べた逆茂木（さかもぎ）の跡	石包丁は農業技術、銅鐸は祭祀、高床倉庫は貯蔵に関する特徴ですが、環濠集落における深い堀や柵（逆茂木）は、純粹に軍事的な防衛を目的としています。吉野ヶ里遺跡などでは、こうした強固な防御施設に加えて、敵を監視するための物見やぐらも確認されており、弥生時代の社会が戦乱の影響を強く受けていたことを物語っています。
問8	答え 4 高床倉庫	弥生時代には大陸から伝わった稲作が東日本を含む日本各地に広まり、食料を保存する必要が生じました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気を防ぎ、コメが腐るのを防ぐとともに、柱の途中に板を取り付けることでネズミなどの害獣が侵入するのを防ぐ仕組みを持っていました。
問9	答え 1 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立しており、奴国のような小国の王は、強大な勢力を持つ中国（後漢）の皇帝に朝貢（貢物を届けること）して「臣下」としての形をとることで、自らの支配の正当性や地位を国際的に裏付けてもらおうとしました。福岡県の志賀島で見つかった金印は、このような当時の国際関係（冊封体制）の実態を象徴する資料です。
問10	答え 3 吉野ヶ里遺跡 ― 大規模な環濠集落	佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、復元された高い柵や深い濠、そして大規模な物見櫓の跡から、当時の極めて高い防衛意識がうかがえる代表的な環濠集落です。これは、当時の社会が「クニ」へとまとまっていく過程で、集落間の抗争が激しかったことを裏付ける重要な史跡です。
問11	答え 3 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭りに用いられた	弥生時代の青銅器は、大陸では武器として使われていた形状を起源としていますが、日本国内では「祭りの道具」としての性格を強めていきました。例えば、銅剣はより薄く装飾的なものへ、銅鐸はより大型で音を響かせるものから観賞用のものへと変化しており、これらは農耕儀礼などの宗教的な場や、首長の権威を示す場において重要な役割を果たしていました。
問12	答え 2 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。	大陸から伝わった本格的な稲作は、九州北部から始まり、次第に本州、四国、東北地方へと広がっていきました。しかし、冷涼な気候の北海道や亜熱帯の沖縄にはこの段階では定着せず、それぞれの地域で独自の文化が営まれました。大王の出現は後の古墳時代のことです。

- 問1 邪馬台国の女王卑弥呼に関する記述として、最も適当なものはどれか。 (2016年 北海道公立入試 類似)
1. 摂政である聖徳太子とともに、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。
 2. 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。
 3. 夫である天皇の死後、軍を率いて朝鮮半島へ出兵したという伝説がある。
 4. 日本で初めて本格的な都城である藤原京を造営し、国家体制を整えた。
- 問2 弥生時代に大陸から稲作が伝わり、食料を蓄えることが可能になったことで生じた社会の変化について、最も適切な説明を選んでください。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 表面に縄目の文様がある、厚手で黒褐色の土器が全国的に作られるようになった。
 2. 政府から農民へ平等に土地が割り当てられ、収穫した稲を税として納める制度が整った。
 3. 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。
 4. ナウマン象などの大型動物を狩猟するために、人々は移動を繰り返しながら生活するようになった。
- 問3 弥生時代の社会状況を示す事例として、香川県にある紫雲上山遺跡のように、瀬戸内海を一望できる高い山の上に作られた「高地性集落」があります。卑弥呼が邪馬台国を治めていた時期を含め、このような特殊な場所に集落が作られた理由として、当時の社会背景を説明したものを選びなさい。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅の侵攻に備えて防衛拠点としての城を築いたため。
 2. 遣隋使や遣唐使として派遣される人々を、高い場所から見送る儀式を行うため。
 3. 大陸から伝来した仏教を修行するための山岳寺院を建てる必要があったため。
 4. 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。
- 問4 弥生時代に本格的に始まった稲作において、実った稲の穂先のみを摘み取って収穫するために使われた磨製石器を何というか。 (2016年 奈良県公立入試 類似)
1. 石包丁
 2. 石鏃
 3. 石匙
 4. 打製石斧
- 問5 弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 収穫した後の脱穀を行うために用いられた
 2. 稲を根元から刈り取るために用いられた
 3. 土を掘り返して苗を植えるために用いられた
 4. 稲の穂の部分をつまみ取るために用いられた
- 問6 紀元前後に位置する東アジアの歴史を記した年表において、1世紀半ばに日本の「倭」の中にあった「奴国」の王が、ある中国の王朝に使節を送り、その証として金印を授けられたという記述があります。この時、奴国の王が使節を送り、金印を授かった王朝の名称として正しいものを選択してください。 (2025年 愛媛県公立入試 類似)
1. 秦
 2. 魏
 3. 隋
 4. 漢 (後漢)
- 問7 弥生時代に作られた青銅器の一種で、釣鐘のような形をしており、表面に流水紋や当時の狩猟・農耕の様子が描かれていることがある、稲作の祭りなどに使われたとされる遺物を何というか名称を答えなさい。 (2020年 大分県公立入試 類似)
1. 勾玉
 2. 銅鏡
 3. 埴輪
 4. 銅鐸
- 問8 弥生時代の遺跡の復元資料において、茅 (かや) などの植物で葺かれた屋根が地面に接するほど低く設置され、地面を掘り下げて基礎としている住居が見られます。この住居と、同じ時代に稲などを保管するために作られた「高床倉庫」の構造上の最大の違いは何ですか。 (2018年 奈良県公立入試 類似)
1. 住居は瓦で屋根を葺いているが、倉庫は茅や草を用いて屋根を葺いている
 2. 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている
 3. 住居は木材を一切使わずに石だけで作られているが、倉庫は木材を中心に作られている
 4. 住居は円形のものしかないが、倉庫はすべて三角形の形をしている
- 問9 長崎県杵岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国 (いきこく)」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
1. 『魏志』倭人伝
 2. 『宋書』倭国伝
 3. 『後漢書』東夷伝
 4. 『漢書』地理志
- 問10 1世紀の日本 (倭) において、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かった政治的な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 佐賀県公立入試 類似)
1. 仏教を日本に伝来させるための正式な許可を、中国の皇帝から得るため
 2. 遣隋使や遣唐使を派遣する前の準備として、航路の安全を中国側に確認するため
 3. 中国の律令制度を日本に導入し、天皇を中心とした中央集権国家を築くため
 4. 中国の皇帝から自国の支配者としての地位を認めてもらい、周囲の小国に対して権威を高めるため
- 問11 弥生時代に朝鮮半島から稲作が伝来したことで、縄文時代とは異なる社会状況が生まれました。生産力の向上や定住生活に伴って発生した出来事について、適切に説明しているものはどれですか。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
1. 狩猟や採集が中心の生活となり、人々は獲物を求めて常に移動し続けた。
 2. 仏教が伝来し、各地で大規模な寺院の建設が始まった。
 3. 冠位十二階が定められ、個人の才能や功績に応じて役職が与えられた。
 4. 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐって、むら同士の争いが発生した。
- 問12 弥生時代に大陸から稲作が伝来して定住生活が広まると、集落 (ムラ) の間で大規模な争いが発生するようになりました。縄文時代の狩猟・採集中心の生活ではあまり見られなかったこのような対立が、弥生時代に激化した主な理由として適切なものはどれですか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
1. 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため
 2. 大陸から伝来した仏教の布教をめぐり、信仰の違いから衝突が起きたため
 3. 獲物を追って移動する範囲を広げる中で、獲物の所有権をめぐって対立したため
 4. 気候の寒冷化によって木の実などの食料が激減し、採集場所を奪い合ったため
- 問13 3世紀前半の倭 (日本) について記した中国の歴史書である「魏志倭人伝」には、多くの小国を従えた強力な勢力の存在が記されています。この勢力の名称と、周辺の小国を連合させて治めていたとされる女王の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
1. 邪馬台国 — 推古天皇
 2. 邪馬台国 — 卑弥呼
 3. 奴国 — 持統天皇
 4. 奴国 — 卑弥呼

答え合わせ・解説

問1	答え 2 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。	『魏志』倭人伝には、卑弥呼が239年に魏へ使いを送り、その返礼として金印や銅鏡100枚を与えられたと記されています。他の選択肢は、それぞれ推古天皇、持統天皇、神功皇后に関連する内容であり、卑弥呼の事績ではありません。
問2	答え 3 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。	稲作が普及すると、生産力の向上により食料の蓄え（余剰生産物）ができるようになりました。これにより、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれるとともに、稲作に不可欠な土地や水の利権をめぐって集落（ムラ）同士の争いが発生するようになりました。こうした争いを通じて、次第に多くのムラを統合する小国が形成されていきました。
問3	答え 4 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。	弥生時代は稲作による余剰生産物が生じたことで、富の蓄積や階級の差が生まれ、各地で土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。瀬戸内海沿岸の山頂付近にある紫雲出山遺跡のような高地性集落は、敵の動きをいち早く察知し、集落を守るための軍事的な拠点としての役割を担っていました。中国の歴史書に記された「倭国大乱」も、こうした激しい社会状況を裏付けています。
問4	答え 1 石包丁	稲作が普及した弥生時代を代表する農具の一つです。当時は稲の品種が統一されておらず、一粒一粒の熟し方が異なっていたため、実ったものから順に摘み取る「穂首刈り」が行われていました。その際に使用されたのが、この磨製石器です。
問5	答え 4 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた	弥生時代前期の収穫方法である「穂首刈り」に関する問いです。当時は稲が実る時期が一定ではなかったため、実った稲の穂だけの一つずつ石包丁で摘み取っていました。根元から刈り取る方式は、後に鉄製の鎌が普及するまで一般的ではありませんでした。
問6	答え 4 漢（後漢）	1世紀半ばにあたる57年に、倭の奴国の王が中国の王朝である「漢（後漢）」に使節を送り、光武帝から金印を授けられたことが、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。この金印は、江戸時代に現在の福岡県にある志賀島（しかのしま）で発見され、「漢委奴国王」という文字が刻まれていました。
問7	答え 4 銅鐸	大陸から伝わった金属器の技術により、弥生時代には青銅器や鉄器が作られるようになりました。銅鐸は近畿地方を中心に分布しており、初期のものは音を鳴らすための楽器のような役割でしたが、次第に大型化し、稲作の豊作を祈る祭祀（祭り）のための道具として用いられるようになったと考えられています。
問8	答え 2 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている	たて穴住居は地面を掘り下げて床を作ることで住空間を確保していましたが、収穫した稲を保管する高床倉庫は、湿気やネズミなどの害を防ぐために床を地面から高く離れた構造をとっていました。同じ集落内にあっても、目的によって構造が明確に使い分けられていたことがわかります。
問9	答え 1 『魏志』倭人伝	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多くの小国に分かれ、交易を行いながらも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。
問10	答え 4 中国の皇帝から自国の支配者としての地位を認めてもらい、周囲の小国に対して権威を高めるため	1世紀の日本は多くの小国に分かれており、それぞれの王は中国の王朝へ朝貢（貢ぎ物を送る）することで、自らの支配権を国際的に認めてもらおうとしました。中国の皇帝から「印」や「称号」を授かることは、国内の競争相手に対して有利な立場を築くための重要な外交手段でした。
問11	答え 4 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐって、むら同士の争いが発生した。	稲作の開始により、安定した食料生産が可能になり定住が進んだ一方で、水利権や肥沃な土地、蓄えられた稲をめぐると対立が生まれました。当時の遺跡からは、戦いに備えて集落の周囲に深い堀を巡らせた「環濠集落」や、木製の武器、矢じりが刺さった人骨などが発見されており、組織的な紛争があったことが分かります。
問12	答え 1 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため	稲作が始まると、安定して米を生産するために、日当たりの良い土地や灌漑に必要な水の確保が死活問題となりました。これらをめぐって集落間で利害が対立したことが、組織的な武力衝突へと発展しました。また、収穫した米を蓄積できるようになったことで、貧富の差や権力の差が生じたことも争いの一因です。
問13	答え 2 邪馬台国 ― 卑弥呼	2世紀後半から続いた倭国の大きな戦乱を収めるため、複数の小国の王たちによって卑弥呼が女王として擁立されました。この連合勢力が邪馬台国です。1世紀に後漢へ使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは奴国（なこく）の王であり、卑弥呼とは時代や状況が異なります。

問1 弥生時代の3世紀、邪馬台国の卑弥呼が中国の「魏」に対して使いを送った目的と、その結果として当時の国際情勢から読み取れる背景として最も適切なものはどれか。 (2017年 東京都公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 隋の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して「日出づる処の天子」という国書を届けさせた。 | 2. 全国的な徴税制度である大宝律令を確立させるために、中国から法制度の専門家を招いて政治改革を推進した。 | 3. 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。 | 4. 日宋貿易を円滑に進めるために、大輪田泊のような港湾施設を整備して中国との経済的な結びつきを重視した。 |
|---|---|---|---|

問2 1世紀頃の東アジアにおいて、中国の皇帝が周辺国の支配者に対して「みつぎ物」の見返りとして「称号」や「印」などを与える国際秩序がありました。倭の王が中国へ使いを送った歴史的背景や目的として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 仏教などの新しい宗教を中国から正式に導入し、国を治めるための思想として活用しようとした。 | 2. 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。 | 3. 朝鮮半島北部の小国として、中国の強力な武力による直接支配から逃れるための許可を求めた。 | 4. 中国と対等な立場で外交関係を築き、軍事的な同盟を結ぶことで領土を拡大しようとした。 |
|---|---|--|--|

問3 千葉県茂原市の宮ノ台遺跡から出土した、弥生時代中期の代表的な土器である「宮ノ台式土器」が作られていた頃の世界情勢について、日本の状況と関連付けて説明したものとして正しいものはどれですか。 (2023年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 日本では鉄器の使用が始まったばかりであったが、世界では中国の殷(商)が文字や青銅器を使用し始めていた。 | 2. 日本では仏教が伝来し聖徳太子が政治を行っていたが、世界ではメソポタミアでハンムラビ王が法典を制定した。 | 3. 日本では稲作が定着し、地域ごとに特色ある土器が作られる一方で、西洋ではローマ帝国が地中海を支配していた。 | 4. 日本では狩猟や採集が生活の中心であり、世界ではエジプト文明においてピラミッドが建設されていた。 |
|--|--|---|--|

問4 日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭りの道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 縄文時代 | 2. 弥生時代 | 3. 古墳時代 | 4. 奈良時代 |
|---------|---------|---------|---------|

問5 弥生時代、土を耕すための農具や敵と戦うための武器には、青銅ではなく主に「鉄」が材料として選ばれました。このように鉄器が実用品として普及した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 大阪府公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 鉄は日本列島で独自に発見された金属であり、大陸から輸入する必要があった青銅よりも安価だったから。 | 2. 青銅は非常に重く持ち運びが困難だったため、軽量の鉄が実用的な道具として好まれたから。 | 3. 鉄は青銅よりも融点が低く、当時の未熟な技術でも簡単に大量生産することができたから。 | 4. 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。 |
|---|---|--|--|

問6 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2026年 北海道公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|--|----------------------------------|
| 1. 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。 | 2. 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。 | 3. ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。 | 4. 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。 |
|------------------------------------|------------------------------------|--|----------------------------------|

問7 弥生時代に製作された銅鐸や銅鏡などの青銅器について、その主な役割や目的として最も適切な説明はどれか。 (2026年 新潟県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|---|-------------------------------|
| 1. 集落間の争いにおいて、敵を攻撃するための強力な武器として用いられた | 2. 大陸との交易において、通貨の代わりとなる経済的な手段として用いられた | 3. 木材を加工したり土を掘り起こしたりするための実用的な工具として用いられた | 4. 稲作の豊穰などを願うための祭祀の道具として用いられた |
|--------------------------------------|---------------------------------------|---|-------------------------------|

問8 弥生時代に大陸から伝えられた金属器のうち、銅鐸や銅剣などの青銅器は、主にどのような目的で使用されていたと考えられますか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|------------------------|-------------------------------------|
| 1. 都の東西に置かれた市で、布や米と交換される通貨として用いられた | 2. 土地を耕したり木を加工したりする実用的な工具として用いられた | 3. 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた | 4. 食物を煮炊きしたり、貯蔵したりするための生活容器として用いられた |
|------------------------------------|-----------------------------------|------------------------|-------------------------------------|

問9 弥生時代に大陸から伝わり、日本の社会を大きく変化した稲作の広がりについて述べた文として、正しいものはどれか。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 稲作が伝わった直後に大王(おおきみ)と呼ばれる強力な支配者が現れ、全国の開墾を命令した。 | 2. 稲作は日本全土に均一に広まり、北海道や沖縄においてもこの時期に大規模な水田開発が行われた。 | 3. 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。 | 4. 稲作の普及により、それまで使われていた打製石器がすべて消失し、すべてが青銅器や鉄器に置き換わった。 |
|---|--|---|--|

問10 稲作の伝来によって食料を蓄えることが可能になると、社会の仕組みが大きく変化しました。土地や水をめぐる争いが発生し、富や権力を持つ者が現れたことで生じた、当時の社会の変化として正しい説明を選びなさい。 (2023年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|
| 1. 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。 | 2. 人々は定住をやめ、マンモスを追いかけて移動する生活に戻った。 | 3. 朝廷が全国の人々を戸籍に登録し、すべての人に一律に口分田を支給した。 | 4. 身分差がなくなり、すべての村人が平等に食料を分配する仕組みが完成した。 |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|

問11 3世紀の日本の様子を伝える中国の歴史書『魏志倭人伝』の記述に基づき、当時の社会や統治の状況として正しい説明はどれですか。 (2022年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---------------------------------------|---|
| 1. 墾田永年私財法が制定され、新しく開墾した土地を永久に自分のものにすることが認められた。 | 2. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、乱れていた多くの国をまとめ、約30の国を従えていた。 | 3. 唐から来日した鑑真が仏教の戒律を伝え、国内の寺院の整備が進められた。 | 4. 聖徳太子が冠位十二階を定め、家柄にとらわれず才能のある人物を役人に登用した。 |
|--|--|---------------------------------------|---|

問12 弥生時代の社会において、大陸から伝わった「青銅器」と「鉄器」の使い分けに関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 長崎県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|---|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 青銅器は鋭い切れ味を活かして農具に、鉄器は祭りの楽器に用いられた。 | 2. 青銅器は主に通貨として流通し、鉄器は主に古墳の副葬品としてのみ使われた。 | 3. 青銅器は祭りの道具として用いられ、鉄器は工具や農具として用いられた。 | 4. 青銅器は書院造のような武家の住居を飾る装飾品として用いられた。 |
|--------------------------------------|---|---------------------------------------|------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。	当時の東アジアでは、中国の皇帝に朝貢して臣下としての称号を受けることで、周辺諸国の王が自らの地位を保証してもらう「冊封（さくほう）」という仕組みがありました。多くの小国が対立していた弥生時代の日本（倭）において、卑弥呼が強力な「魏」の皇帝から「親魏倭王」の称号を得たことは、他の勢力に対して自らの権威を示す強力な武器となりました。聖徳太子が隋に対して対等な外交を試みたのは後の7世紀の出来事であり、卑弥呼の時代はまだ中国を中心とした秩序を利用して国内統治を安定させようとしていた段階にあたります。
問2	答え 2 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。	当時の倭の王は、東アジアで圧倒的な権威を持っていた中国の皇帝に「朝貢」し、その臣下として認められる（冊封を受ける）ことで、自らの支配の正当性を強化しようとした。これは対等な外交ではなく、中国を中心とした主従関係に基づく国際秩序の中に組み込まれることを意味しています。
問3	答え 3 日本では稲作が定着し、地域ごとに特色ある土器が作られる一方で、西洋ではローマ帝国が地中海を支配していた。	宮ノ台式土器が作られた弥生時代中期は、日本列島で稲作を基盤とした社会が確立し、小国が形成され始めた時期です。これと同じ時期、世界の西側ではイタリア半島から勢力を伸ばしたローマが、北アフリカや西アジアを含む地中海一帯を版図に収める巨大な帝国を築いていました。歴史学習においては、日本の時代区分と世界の大きな出来事を結びつけて理解することが重要です。
問4	答え 2 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稻耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭祀具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問5	答え 4 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。	鉄は青銅に比べて非常に硬く、刃先を鋭く研ぐことができるため、木を伐採したり土を掘り起こしたりする農具、あるいは高い殺傷能力が求められる武器に最適でした。対して青銅は、鉄に比べると柔らかく脆いため、激しい衝撃が加わる実用的な道具には不向きであり、主に祭祀用の道具（祭具）としてその価値を見出されました。
問6	答え 4 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。	弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。
問7	答え 4 稲作の豊穰などを願うための祭祀の道具として用いられた	弥生時代の金属器には役割分担がありました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用的な道具として使われました。一方で、青銅器は加工しやすく美しい光沢を持つため、神をまつる儀式や村の行事で使われる祭祀具（宝物）として発展しました。
問8	答え 3 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた	弥生時代に鉄器とともに大陸から伝わった青銅器は、鉄器が武器や工具として実用的に使われたのに対し、銅鐸や銅剣などは音を鳴らしたり飾ったりする祭礼用の道具として用いられました。稲作の普及にとともに、豊作を祈るなどの集団の儀式が重要になった背景があります。なお、食物を煮炊きする道具としては、この時代は弥生土器が、のちの時代には須恵器などが用いられました。
問9	答え 3 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。	大陸から伝わった本格的な稲作は、九州北部から始まり、次第に本州、四国、東北地方へと広がっていきました。しかし、冷涼な気候の北海道や亜熱帯の沖縄にはこの段階では定着せず、それぞれの地域で独自の文化が営まれました。大王の出現は後の古墳時代のことです。
問10	答え 1 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。	稲作によって余剰生産物が生まれると、蓄えの多い者と少ない者の間で貧富の差が生じました。また、水資源を管理するリーダーが権力を持つようになり、小さな集団が統合されて「クニ」が形成されました。それらを統治する「王」が登場したことは、中国の歴史書にも記されています。なお、戸籍による口分田の支給は、後の律令国家の仕組み（班田収授の法）にあたります。
問11	答え 2 邪馬台国の女王である卑弥呼が、乱れていた多くの国をまとめ、約30の国を従えていた。	『魏志倭人伝』は3世紀の日本の様子を記した中国の歴史書です。そこには、倭（日本）でそれまで続いていた争いが収まり、卑弥呼という女王が邪馬台国を中心として約30の国々を従えて統治していたことが記されています。他の選択肢にある冠位十二階は7世紀（飛鳥時代）、鑑真的来日や墾田永年私財法は8世紀（奈良時代）の出来事です。
問12	答え 3 青銅器は祭りの道具として用いられ、鉄器は工具や農具として用いられた。	弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に伝わりました。鉄は非常に硬いため、木を加工する工具や、土を掘り返す農具、実戦用の武器などの実用的な用途に主に使われました。一方で青銅は鉄よりも柔らかいため、銅鐸、銅剣、銅矛などのように、神を祀る儀式や祭りの道具として象徴的に使われるようになりました。

- 問1 弥生時代に環濠集落が形成されるようになった直接的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。 | 2. 大陸から仏教が伝わり、寺院を中心とした新しい町づくりが推奨されたため。 | 3. 大規模な土木技術が導入され、洪水などの自然災害から住居を守ることに目的となったため。 | 4. 気候の寒冷化により、家畜を野生動物の襲来から守るための囲いが必要になったため。 |
|--|--|---|--|
- 問2 5世紀、倭の五王が中国の南朝である「宋」へたびたび使者を送った目的として、当時の東アジア情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。 | 2. 福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印を、宋の皇帝に返還するため。 | 3. 遣隋使の派遣に先立ち、中国の進んだ律令制度や仏教を日本に導入する許可を得るため。 | 4. 邪馬台国内での争いを鎮めるために、中国の強力な軍隊を日本国内へ招き入れるため。 |
|---|--|---|--|
- 問3 弥生時代に大陸から伝来した金属器に関する統計資料において、武器や工具として実用的に使われたものとは別に、主に祭祀や儀式の道具として分類される金属器があります。銅鐸や銅鏡などが代表例である、この金属器の名称として適切なものを選びなさい。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|---------|--------|
| 1. 須恵器 | 2. 鉄器 | 3. 打製石器 | 4. 青銅器 |
|--------|-------|---------|--------|
- 問4 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、集落の周囲に深い濠（ほり）や土塁を巡らせた「環濠集落」の代表例として知られています。このような大規模な防衛施設を持つ集落が弥生時代に造られるようになった社会的な背景として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|---------------------------------------|--|
| 1. 狩猟や採集の効率を上げるために、獲物となる動物を追い込む囲いが必要だったため | 2. 仏教の伝来にともない、寺院を中心とした聖域を保護する必要が生じたため | 3. 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため | 4. 頻発する大規模な洪水や高潮から、住居や高床倉庫の浸水を防ぐ必要があったため |
|---|---------------------------------------|---------------------------------------|--|
- 問5 島根県の荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡では、大量の銅剣や銅鐸が一箇所に埋められた状態で発見されている。これらの金属器が、当時の社会において果たしていた役割について説明したものととして、最も適切なものはどれか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|
| 1. 米などの収穫量を正確に計測するための度量衡として用いられた | 2. 五穀豊穡などを祈るための祭祀用の道具として用いられた | 3. 他の集落との戦争において、殺傷能力の高い武器として実戦で用いられた | 4. 大規模な森林を切り開くための伐採具として用いられた |
|----------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|
- 問6 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。 | 2. 竪穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。 | 3. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。 | 4. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。 |
|---|--|---|--|
- 問7 佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡では、居住エリアの周囲を二重の濠（ほり）や高い柵が囲んでおり、外敵を監視するための物見櫓（ものみやぐら）の跡も見つかっています。この遺跡の名称と特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------|----------------------|--------------------------|------------------------|
| 1. 三内丸山遺跡 — 縄文時代の巨大集落 | 2. 吉野ヶ里遺跡 — 大規模な環濠集落 | 3. 板付遺跡 — 広場に川が流れる開放的な集落 | 4. 登呂遺跡 — 仏教寺院が建立された集落 |
|-----------------------|----------------------|--------------------------|------------------------|
- 問8 倭の奴国の王が、中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀（西暦57年）ごろの世界情勢について、ヨーロッパや地中海周辺の動きを説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|
| 1. ギリシャ人が地中海沿岸の各地にポリス（都市国家）を建設し始めた | 2. 西ローマ帝国が滅亡し、ゲルマン人の大移動が本格化していた | 3. アレクサンドロス大王が東方遠征を行い、ヘレニズム文化が広がっていた | 4. 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた |
|------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|
- 問9 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--|
| 1. 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。 | 2. 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。 | 3. 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。 | 4. ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。 |
|------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--|
- 問10 弥生時代に製作された銅鐸や銅鏡などの青銅器について、その主な役割や目的として最も適切な説明はどれか。 (2026年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1. 集落間の争いにおいて、敵を攻撃するための強力な武器として用いられた | 2. 稲作の豊穡などを願うための祭祀の道具として用いられた | 3. 大陸との交易において、通貨の代わりとなる経済的な手段として用いられた | 4. 木材を加工したり土を掘り起こしたりするための実用的な工具として用いられた |
|--------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|---|
- 問11 弥生時代の大規模な集落に見られる「環濠集落」について、集落の周囲に深い濠や柵を設けた当時の社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 大規模な洪水や高潮などの自然災害から、住居や高床倉庫が流されるのを防ぐため | 2. 仏教が伝来したことで、寺院を中心とした聖なる空間を俗世間から区別するため | 3. 大陸から伝わった最新の建築技術を誇示し、周辺の豪族に対して政治的優位を示すため | 4. 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防衛を固める必要があったため |
|--|---|--|---|
- 問12 長崎県壱岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|------------|------------|-------------|
| 1. 『宋書』倭国伝 | 2. 『魏志』倭人伝 | 3. 『漢書』地理志 | 4. 『後漢書』東夷伝 |
|------------|------------|------------|-------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。	縄文時代の狩猟・採集中心の生活から、弥生時代の稲作中心の生活へ移行すると、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる貧富の差や集落間の対立が生まれました。こうした紛争（戦争）の証拠として、防御用設備を備えた環濠集落や、矢を射込まれた人骨などが各地で発見されています。
問2	答え 1 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。	5世紀の倭（ヤマト政権）は、国内の統一を進めるとともに、鉄資源の確保などを求めて朝鮮半島への進出を強めていました。倭の五王は、朝鮮半島における百済や加耶（加羅）に対する軍事的な影響力や外交的な地位を中国の皇帝に認めてもらう（官爵を得る）ことで、他国や国内の諸勢力に対して自らの正当性を主張しようとした。
問3	答え 4 青銅器	弥生時代には、鉄器とほぼ同時期に大陸から青銅器が伝わりました。鉄器がその硬さを活かして武器や農具、工具として実用的に使われたのに対し、青銅器は磨くと光り輝く性質などから、豊作を祈る祭り（祭祀）や村の重要な儀式に用いられる特別な道具として重宝されました。
問4	答え 3 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため	弥生時代に大陸から本格的な水稲耕作が伝わると、収穫物の余剰を蓄える「富」が生まれ、それを奪い合う争いが始まりました。吉野ヶ里遺跡に見られる深い濠や逆茂木（さかもぎ）、物見やぐらなどの施設は、敵の侵入を防ぎ、共同体の財産や命を守るために発達した軍事・防衛的な工夫です。
問5	答え 2 五穀豊穡などを祈るための祭礼用の道具として用いられた	弥生時代の青銅器は、刃が薄く作られているものや、大型化して音が鳴らなくなったもの（銅鐸）があることから、武器や道具としての実用性は低かったと考えられています。これらは集落の共同体で共有され、五穀豊穡や魔除けを祈るための「祭祀の道具」として、神聖な儀式に用いられていました。
問6	答え 3 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。
問7	答え 2 吉野ヶ里遺跡 ― 大規模な環濠集落	佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、復元された高い柵や深い濠、そして大規模な物見櫓の跡から、当時の極めて高い防衛意識がうかがえる代表的な環濠集落です。これは、当時の社会が「クニ」へとまとまっていく過程で、集落間の抗争が激しかったことを裏付ける重要な史跡です。
問8	答え 4 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた	日本が後漢と交渉を持っていた紀元1世紀ごろ、ヨーロッパでは地中海全域を支配するローマ帝国が全盛期を迎えていました。この時期は中国の漢王朝とローマ帝国の間で、シルクロードを通じた間接的な交流が行われていた時代でもあります。ギリシャのポリス建設は紀元前8世紀ごろ、アレクサンドロス大王の遠征は紀元前4世紀ごろの出来事です。
問9	答え 3 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。	弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。
問10	答え 2 稲作の豊穡などを願うための祭祀の道具として用いられた	弥生時代の金属器には役割分担がありました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用的な道具として使われました。一方で、青銅器は加工しやすく美しい光沢を持つため、神をまつる儀式や村の行事で使われる祭祀具（宝物）として発展しました。
問11	答え 4 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため	縄文時代にはあまり見られなかった集落同士の争いは、弥生時代に入り稲作による余剰生産物（富）が生まれたことで発生しました。吉野ヶ里遺跡などの調査からは、集落全体を壕や柵で囲むだけでなく、物見櫓を立てて外敵を監視していた様子も判明しており、当時の社会が非常に緊張感のある状態にあったことを示しています。
問12	答え 2 『魏志』倭人伝	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多くの小国に分かれ、交易を行いつつも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。

問1	3世紀の日本の様子が記された中国の史書『三国志』の「魏志」倭人伝において、約30の国々をまとめ、中国の魏に使いを送ったとされる邪馬台国の女王は誰ですか。 （2025年 長野県公立入試 類似）			
	1. 北条政子	2. 推古天皇	3. 卑弥呼	4. 持統天皇
問2	弥生時代の集落で見られる、地面を円形や方形に掘り下げて床を作り、そこに数本の柱を立てて屋根をかけた、当時の人々が生活していた一般的な住居形式を何といいますか。 （2018年 奈良県公立入試 類似）			
	1. 合掌造り	2. たて穴住居	3. 寝殿造	4. 高床倉庫
問3	弥生時代の遺跡からは、大陸から伝わった銅剣や銅矛などの青銅器が発見されることがあります。これらの青銅器の使われ方の特徴や変化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 （2017年 岡山県公立入試 類似）			
	1. 当初は武器として伝わったが、日本では次第に豊作を祈る祭祀や儀式のための宝物として使われるようになった。	2. 弥生時代には鉄器がまだ伝わっていなかったため、青銅器が唯一の金属製武器として実戦で使われ続けた。	3. 各地の王が富を蓄えるための貨幣として使われ、和同開珎が作られるまで主要な流通手段となった。	4. 青銅器は非常に硬くて丈夫であったため、収穫した稲を加工するための農業用工具として普及した。
問4	1世紀頃、日本（倭）の小国の王が中国の漢（後漢）の皇帝に使いを送り、皇帝から臣下として認められた証として授けられたとされる金印には、どのような文字が刻まれていますか。 （2019年 長野県公立入試 類似）			
	1. 卑弥呼	2. 親魏倭王	3. 志賀島	4. 漢委奴国王
問5	邪馬台国の女王卑弥呼が、当時の中国の王朝である魏に使いを送った背景やその後の状況を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。 （2023年 山形県公立入試 類似）			
	1. 秦の始皇帝に対して不老不死の薬を献上することで、国内の争いを鎮めるための軍事支援を求めた。	2. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。	3. 倭の奴国の王として、後漢の皇帝から金印を授かり、九州地方の交易の利権を独占しようとした。	4. 大陸の優れた仏教文化を直接取り入れるために、公式な使節として小野妹子を魏の都へ派遣した。
問6	中国の歴史書とそこに記された倭（日本）に関する記述の組み合わせについて、記述内容から判断して「魏志」倭人伝の説明として最も適切なものを選びなさい。 （2024年 沖縄県公立入試 類似）			
	1. 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述	2. 倭人が100余りの国に分かれ、朝鮮半島の楽浪郡に定期的に使者を送っていたとする記述	3. 倭王が中国の皇帝に対し、自らを「日出づる処の天子」と称する国書を送ったとする記述	4. 倭の奴国の王が後漢の皇帝から金印を授かり、のちに倭国全体で大きな乱れが起きたとする記述
問7	福岡県の志賀島で発見された金印には、正方形の印面に「漢委奴国王」の五文字が刻まれており、つまみの部分は蛇を模した形状（蛇鈕）となっています。この金印を奴国の王が後漢の皇帝から授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 （2023年 富山県公立入試 類似）			
	1. 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため	2. 大陸から仏教を公式に導入するための許可を得て、国内の宗教的な統一を図ろうとしたため	3. 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を得るための事前交渉として、大陸との友好関係を築くため	4. モンゴル民族の侵攻に対抗するため、大陸の軍隊に日本列島までの援軍を要請したため
問8	弥生時代に使用された道具とその背景について述べた文として、正しいものはどれですか。 （2024年 山口県公立入試 類似）			
	1. 収穫の効率を上げるために、鉄製の鎌を用いて稲の根元から刈り取る方式がこの時代に確立した。	2. 金属器のうち、青銅器は主に木材を加工するための工具として、鉄器は祭祀用の宝物として使い分けられた。	3. 牛や馬を農作業に利用する牛馬耕が導入されたことで、大規模な水田開発が全国で一斉に進んだ。	4. 稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。
問9	日本の歴史における、弥生時代の社会の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 （2024年 山口県公立入試 類似）			
	1. 大陸から稲作の技術が伝わり、水田の近くで共同生活を送る「むら」と呼ばれる集落がつくられるようになった。	2. 衣類に用いる素材として麻に代わり綿（木綿）が全国的に普及し、庶民の生活水準が大きく向上した。	3. 日本列島がまだ大陸と陸続きであったため、人々はナウマンゾウなどの大型の動物を追って移動しながら生活していた。	4. 農業の生産力を高めるために、同じ耕地で一年に二種類の作物を栽培する二毛作の技術が全国的に広まった。
問10	佐賀県で発見された、弥生時代の大規模な環濠集落の跡として知られる遺跡について述べた文として、適切なものはどれですか。 （2016年 岐阜県公立入試 類似）			
	1. 相沢忠洋によって発見された、日本に旧石器時代が存在したことを証明する遺跡である。	2. 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。	3. 戦国時代から江戸時代にかけて銀の採掘が行われた、世界遺産に登録されている遺跡である	4. 縄文時代の集落跡であり、大型の竪穴住居やクリの栽培跡が確認されている。
問11	3世紀の日本において、30余りの小国を従えていた邪馬台国の女王は、中国の王朝である魏に使者を送りました。この女王が魏の皇帝から授かった称号として正しいものはどれか。 （2018年 福島県公立入試 類似）			
	1. 親魏倭王	2. 倭王武	3. 漢委奴国王	4. 征夷大將軍
問12	弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器のうち、銅とスズの合金で作られ、主に豊作を祈るなどの祭祀（祭り）の儀式に用いられた道具の総称を何というか。 （2022年 島根県公立入試 類似）			
	1. 打製石器	2. 鉄器	3. 青銅器	4. 土器
問13	弥生時代に大陸から伝えられた金属器のうち、銅鐸や銅剣などの青銅器は、主にどのような目的で使用されていたと考えられますか。 （2019年 徳島県公立入試 類似）			
	1. 食物を煮炊きしたり、貯蔵したりするための生活容器として用いられた	2. 土地を耕したり木を加工したりする実用的な工具として用いられた	3. 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた	4. 都の東西に置かれた市で、布や米と交換される通貨として用いられた

答え合わせ・解説

問1	答え 3 卑弥呼	3世紀の日本（倭）では、多くの小国が争っていましたが、邪馬台国の女王である卑弥呼が呪術的な力を背景にこれらをまとめ上げました。彼女は239年に中国の魏へ使者を送り、外交関係を築いたことが『魏志倭人伝』に記録されています。
問2	答え 2 たて穴住居	弥生時代の集落において、人々の生活の場として最も一般的だったのがこの住居形式です。地面を掘り下げること断熱効果を高めていたと考えられており、縄文時代から継続して用いられました。地面を掘り下げて床にする構造がその名称の由来となっています。
問3	答え 1 当初は武器として伝わったが、日本では次第に豊作を祈る祭祀や儀式のための宝物として使われるようになった。	弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に伝わりました。実用的な武器や工具としては硬い鉄器が主に使われたのに対し、青銅器（銅剣・銅矛・銅鐸など）は、形が大型化・平坦化していくとともに、ムラの祭祀や祭りの際に権威を示したり神を祀ったりするための道具（祭器）としての性格を強めていきました。
問4	答え 4 漢委奴国王	1世紀（西暦57年）に倭の奴国の王が後漢の光武帝に朝貢した際、皇帝から授けられたものです。この金印には「漢の委（倭）の奴の国の王」を意味する文字が刻まれており、当時の中国が周辺の支配者に称号や印を与えて地位を認める国際秩序（冊封体制）の一部であったことを示しています。
問5	答え 2 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。	当時の倭は多くの小国に分かれて争っていましたが、卑弥呼が強力な魏の皇帝から「倭の王」として認められ、称号や贈り物を授かることは、周辺の国々に対して自らの政治的正当性を示す外交的な手段でした。この記録が残る『魏志倭人伝』によって、当時の日本に存在した邪馬台国の統治体制や社会の様子が現代に伝えられています。
問6	答え 1 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述	『魏志』倭人伝は、邪馬台国の政治体制や女王卑弥呼の死、そしてその後の大規模な埋葬儀礼について具体的に伝えています。他の選択肢について、100余りの国に分かれていたとするのは紀元前1世紀頃の「漢書」地理志、金印の授与や倭国の乱れ（倭国大乱）は1世紀から2世紀頃の様子を記した「後漢書」東夷伝、天子を自称したのは7世紀初頭の「隋書」倭国伝の記述です。
問7	答え 1 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため	当時の倭（日本）は多くの小国に分かれていました。奴国のような有力な国の王は、中国の皇帝に使節を送って「臣下」となる代わりに、王としての正当性を認めてもらう（冊封を受ける）ことで、国内や周辺諸国に対する権威を強化しようとした。仏教の伝来や卑弥呼の登場、モンゴルの侵攻はすべて後の時代の出来事です。
問8	答え 4 稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。	弥生時代には大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりました。鉄器は主に工具や農具などの実用品として、青銅器は銅鐸や銅鏡のように祭祀・儀式用の宝物として用いられました。稲の収穫には主に石包丁が使われ、穂の部分のみを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。牛馬耕が普及するのは平安時代以降のことです。
問9	答え 1 大陸から稲作の技術が伝わり、水田の近くで共同生活を送る「むら」と呼ばれる集落がつくられるようになった。	弥生時代には、大陸から伝来した稲作によって定住生活が本格化しました。水田の管理や収穫には集団での協力が必要だったため、人々は水田の近くに「むら」を形成するようになりました。日本列島が大陸と陸続きだったのは旧石器時代の特徴です。また、綿（木綿）の普及は江戸時代、二毛作が全国的に広まったのは鎌倉時代から室町時代にかけての出来事です。
問10	答え 2 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。	吉野ヶ里遺跡は佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡です。この遺跡では、防御のための堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されており、復元された物見やぐらや、祭祀に使われたと考えられる銅鐸などの青銅器が出土しているのが特徴です。選択肢にある縄文時代の集落は三内丸山遺跡、旧石器時代の遺跡は岩宿遺跡、銀山は石見銀山遺跡を指しています。
問11	答え 1 親魏倭王	中国の歴史書『魏志』倭人伝には、239年に邪馬台国の卑弥呼が魏に使者を送ったことが記されています。魏の皇帝は卑弥呼に対し、魏と親しい倭の王であることを示す「親魏倭王」の称号と、金印や多数の銅鏡（三角縁神獣鏡など）を授け、彼女の支配権を国際的に認めました。
問12	答え 3 青銅器	弥生時代には、大陸から青銅器と鉄器がほぼ同時に伝来しました。青銅器は、その独特の光沢や希少性から、実用的な道具というよりも、村の祭礼や儀式で用いられる祭具としての性格を強く持っていました。代表的なものに銅鐸、銅剣、銅鏡などがあります。
問13	答え 3 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた	弥生時代に鉄器とともに大陸から伝わった青銅器は、鉄器が武器や工具として実用的に使われたのに対し、銅鐸や銅剣などは音を鳴らしたり飾ったりする祭礼用の道具として用いられました。稲作の普及にとともに、豊作を祈るなどの集団の儀式が重要になった背景があります。なお、食物を煮炊きする道具としては、この時代は弥生土器が、のちの時代には須恵器などが用いられました。

- 問1 「魏志倭人伝」に記されている、3世紀頃の日本（倭）の社会や政治の様子に関する説明として、当時の状況を正しく述べているものを選びなさい。（2025年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------------------------------|---|-------------------------------------|--|
| 1. 仏教が伝来した直後であり、各地で巨大な寺院の建設が始まっていた | 2. 律令制度が導入され、戸籍に基づいて全ての人々に口分田が割り当てられていた | 3. 武士団が結成され、各地の荘園を管理するために地頭が派遣されていた | 4. 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった |
|------------------------------------|---|-------------------------------------|--|
- 問2 弥生時代から江戸時代までの外交上の主なできごとを整理した記録において、3世紀に邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった目的や背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かることで、北九州の奴国を中心とした小国の連合体を統一し、女王の地位を証明するため。 | 2. 朝鮮半島南部での鉄資源の確保を目的として、中国の王朝と軍事同盟を結び、高句麗や百済に対抗するため。 | 3. 先進的な仏教文化や律令制度を日本に導入し、天皇を中心とした中央集権国家の基盤を早急に固めるため。 | 4. 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。 |
|---|--|---|--|
- 問3 弥生時代に朝鮮半島から稲作が伝来したことで、縄文時代とは異なる社会状況が生まれました。生産力の向上や定住生活に伴って発生した出来事について、適切に説明しているものはどれですか。（2023年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|
| 1. 冠位十二階が定められ、個人の才能や功績に応じて役職が与えられた。 | 2. 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐって、むら同士の争いが発生した。 | 3. 狩猟や採集が中心の生活となり、人々は獲物を求めて常に移動し続けた。 | 4. 仏教が伝来し、各地で大規模な寺院の建設が始まった。 |
|-------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|
- 問4 弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に日本列島へ伝わりました。それぞれの金属器が果たした役割の違いについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 鉄器は定期市での取引を円滑にするために使われ、青銅器はイスラム教の礼拝の道具として使われた | 2. 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた | 3. 青銅器は加工のしやすさを活かして農具や工具として普及し、鉄器は主に祭りの道具として使われた | 4. 青銅器は前方後円墳に埋葬するための副葬品として作られ、鉄器は神社の建築のために使われた |
|--|---|--|--|
- 問5 縄文時代末期から弥生時代にかけて、大陸から伝わった稲作がいち早く開始されたと考えられている、現在の福岡県や佐賀県を含む地域はどこですか。（2016年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1. 北九州 | 2. 東北 | 3. 近畿 | 4. 関東 |
|--------|-------|-------|-------|
- 問6 弥生時代の3世紀、邪馬台国の卑弥呼が中国の「魏」に対して使いを送った目的と、その結果として当時の国際情勢から読み取れる背景として最も適切なものはどれか。（2017年 東京都公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 日宋貿易を円滑に進めるために、大輪田泊のような港湾施設を整備して中国との経済的な結びつきを重視した。 | 2. 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。 | 3. 隋の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して「日出づる処の天子」という国書を届けさせた。 | 4. 全国的な徴税制度である大宝律令を確立させるために、中国から法制度の専門家を招いて政治改革を推進した。 |
|---|---|---|---|
- 問7 弥生時代に作られた青銅器の一種で、釣鐘のような形をしており、表面に流水紋や当時の狩猟・農耕の様子が描かれていることがある、稲作の祭りなどに使われたとされる遺物を何というか名称を答えなさい。（2020年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 銅鏡 | 2. 埴輪 | 3. 銅鐸 | 4. 勾玉 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問8 佐賀県で発見された、弥生時代の大規模な環濠集落の跡として知られる遺跡について述べた文として、適切なものはどれですか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 相沢忠洋によって発見された、日本に旧石器時代が存在したことを証明する遺跡である。 | 2. 戦国時代から江戸時代にかけて銀の採掘が行われた、世界遺産に登録されている遺跡である | 3. 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。 | 4. 縄文時代の集落跡であり、大型の竪穴住居やクリの栽培跡が確認されている。 |
|---|--|---|--|
- 問9 弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった金属器のうち、硬くて鋭利な特徴を活かして、木工具や農具、武器などの実用的な道具として広く普及したものは何ですか。（2016年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 1. 鉄器 | 2. 石器 | 3. 青銅器 | 4. 土器 |
|-------|-------|--------|-------|
- 問10 3世紀前半の倭（日本）について記した中国の歴史書である「魏志倭人伝」には、多くの小国に従えた強力な勢力の存在が記されています。この勢力の名称と、周辺の小国を連合させて治めていたとされる女王の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------|----------------|---------------|--------------|
| 1. 奴国 — 卑弥呼 | 2. 邪馬台国 — 推古天皇 | 3. 邪馬台国 — 卑弥呼 | 4. 奴国 — 持統天皇 |
|-------------|----------------|---------------|--------------|
- 問11 佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡では、居住エリアの周囲を二重の濠（ほり）や高い柵が囲んでおり、外敵を監視するための物見櫓（ものみやぐら）の跡も見つかっています。この遺跡の名称と特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------------------|----------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1. 登呂遺跡 — 仏教寺院が建立された集落 | 2. 吉野ヶ里遺跡 — 大規模な環濠集落 | 3. 板付遺跡 — 広場に川が流れる開放的な集落 | 4. 三内丸山遺跡 — 縄文時代の巨大集落 |
|------------------------|----------------------|--------------------------|-----------------------|
- 問12 大陸から伝わった稲作が日本各地に広まったことは、当時の社会のあり方に大きな変化をもたらしました。収穫物の貯蔵という観点から、稲作の普及が社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。（2023年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 収穫した稲を加工するために、鉄器よりも先に漢字が伝来し、役所による管理体制が全国で確立した。 | 2. 収穫物を平等に分配する仕組みが完成したため、ムラ同士の争いは完全になくなり平和な社会が実現した。 | 3. 食料を保存する必要がなくなったため、人々は定住をやめて獲物を追いかける移動生活へと戻った。 | 4. 収穫したコメを富として蓄えることが可能になったため、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれた。 |
|---|---|--|---|
- 問13 弥生時代の遺跡から発掘される人骨に見られる特徴のうち、当時の社会において集落間の対立が激化したことを示す根拠として正しいものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 人骨が、身分に応じた大きさや形の異なる前方後円墳などの古墳から発見されること | 2. 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること | 3. 人骨の周囲に、祭祀に用いられたと考えられる銅鐸や銅剣が大量に並べられていること | 4. 骨の成分分析から、家畜の肉を主食としていたことが判明し、獲物の奪い合いが推測されること |
|---|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での交易が行われていたことが分かります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。
問2	答え 4 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。	当時の倭（日本）では多くの小国が争っていましたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合体をまとめるため、中国の「魏」という大国の威光を利用しました。中国の皇帝から正式に「王」としての称号を授かることは、国内における支配の正当性を高める強力な武器となりました。1世紀の「漢委奴国王」の金印（後漢へ派遣）や、後の時代の仏教伝来、朝鮮半島への出兵とは時代や背景が異なる点を見極める必要があります。
問3	答え 2 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐって、むら同士の争いが発生した。	稲作の開始により、安定した食料生産が可能になり定住が進んだ一方で、水利権や肥沃な土地、蓄えられた稲をめぐる対立が生まれました。当時の遺跡からは、戦いに備えて集落の周囲に深い堀を巡らせた「環濠集落」や、木製の武器、矢じりが刺さった人骨などが発見されており、組織的な紛争があったことが分かります。
問4	答え 2 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた	鉄は青銅よりも硬くて丈夫であるため、木製農具の先を補強する工具や、鋭利な刃物としての武器といった実用的な道具に用いられました。一方で、青銅器は独特の光沢を持つことから権威の象徴や祭りにおける神聖な道具としての性格を強め、鉄器と青銅器で「実用」と「儀礼」という役割の分担がなされました。
問5	答え 1 北九州	朝鮮半島などの大陸に近い地理的条件を備えていた北九州は、新しい技術や文化の玄関口となりました。縄文時代末期には既にこの地域で水田稲作が行われていたことを示す遺跡が見つかり、ここから日本列島の各地へと農耕文化が広がっていきました。
問6	答え 2 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。	当時の東アジアでは、中国の皇帝に朝貢して臣下としての称号を受けることで、周辺諸国の王が自らの地位を保証してもらう「冊封（さくほう）」という仕組みがありました。多くの小国が対立していた弥生時代の日本（倭）において、卑弥呼が強力な「魏」の皇帝から「親魏倭王」の称号を得たことは、他の勢力に対して自らの権威を示す強力な武器となりました。聖徳太子が隋に対して対等な外交を試みたのは後の7世紀の出来事であり、卑弥呼の時代はまだ中国を中心とした秩序を利用して国内統治を安定させようとしていた段階にあたります。
問7	答え 3 銅鐸	大陸から伝わった金属器の技術により、弥生時代には青銅器や鉄器が作られるようになりました。銅鐸は近畿地方を中心に分布しており、初期のものは音を鳴らすための楽器のような役割でしたが、次第に大型化し、稲作の豊作を祈る祭祀（祭り）のための道具として用いられるようになったと考えられています。
問8	答え 3 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。	吉野ヶ里遺跡は佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡です。この遺跡では、防御のための堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されており、復元された物見やぐらや、祭祀に使われたと考えられる銅鐸などの青銅器が出土しているのが特徴です。選択肢にある縄文時代の集落は三内丸山遺跡、旧石器時代の遺跡は岩宿遺跡、銀山は石見銀山遺跡を指しています。
問9	答え 1 鉄器	大陸から伝わった金属器には鉄器と青銅器がありますが、その性質の違いによって用途が分かれていました。青銅器が主に祭りや儀式的道具として用いられたのに対し、鉄器は木材を加工する工具や、土地を耕すための農具、戦いのための武器といった実用的な用途で使われました。これにより食料の生産力が大幅に向上しました。
問10	答え 3 邪馬台国 ― 卑弥呼	2世紀後半から続いた倭国の大きな戦乱を収めるため、複数の小国の王たちによって卑弥呼が女王として擁立されました。この連合勢力が邪馬台国です。1世紀に後漢へ使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは奴国（なこく）の王であり、卑弥呼とは時代や状況が異なります。
問11	答え 2 吉野ヶ里遺跡 ― 大規模な環濠集落	佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、復元された高い柵や深い濠、そして大規模な物見櫓の跡から、当時の極めて高い防衛意識がうかがえる代表的な環濠集落です。これは、当時の社会が「クニ」へとまとまっていく過程で、集落間の抗争が激しかったことを裏付ける重要な史跡です。
問12	答え 4 収穫したコメを富として蓄えることが可能になったため、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれた。	稲作によって食料の安定的な確保が可能になりましたが、同時に収穫したコメを貯蔵できるようになったことで、それが「富」としての価値を持つようになりました。これにより、多くのコメを持つ者と持たざる者の間で貧富の差が生まれ、さらに水や土地を巡るムラ同士の争いが発生し、社会の階層化が進む要因となりました。
問13	答え 2 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること	弥生時代の遺跡では、戦いによって傷ついた人骨や、鋭利な道具で切断された跡がある人骨がしばしば発見されます。これは、土地や水をめぐる「争い」が社会的に定着したことを示す考古学的な証拠です。銅鐸は祭りや儀式に用いられた道具であり、争いの直接的な証拠ではありません。また、古墳に埋葬されるようになるのは後の古墳時代の特徴であり、弥生時代の争いの証拠とは区別する必要があります。

- 問1 1世紀半ば、奴国の王が中国の王朝（漢）に使者を送り、金印を授けられたという出来事について、その当時の国際関係のあり方や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 山口県公立入試 類似）
1. 対等な立場での外交を求める国書を送り、大陸の進んだ律令制度を日本へ速やかに導入することを目的とした
 2. 仏教を日本に広めるため、優れた経典や仏像を日本へ持ち帰る許可を皇帝に求める使節を派遣した
 3. 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ることで、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした
 4. 朝鮮半島での軍事的な優位を確保するため、中国の王朝と軍事同盟を結び、援軍を派遣してもらう約束を取り付けた
- 問2 弥生時代の社会状況を示す事例として、香川県にある紫雲山遺跡のように、瀬戸内海を一望できる高い山の上に作られた「高地性集落」があります。卑弥呼が邪馬台国を治めていた時期を含め、このような特殊な場所に集落が作られた理由として、当時の社会背景を説明したものを選びなさい。（2021年 香川県公立入試 類似）
1. 大陸から伝来した仏教を修行するための山岳寺院を建てる必要があったため。
 2. 遣隋使や遣唐使として派遣される人々を、高い場所から見送る儀式を行うため。
 3. 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅の侵攻に備えて防衛拠点としての城を築いたため。
 4. 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。
- 問3 弥生時代に作られた高床倉庫において、建物の床を高く設計した主な理由として最も適切な説明を選びなさい。（2022年 三重県公立入試 類似）
1. 高い位置から周囲を監視し、敵の侵入をいち早く察知するため
 2. 床下を住居スペースとして活用し、土地を効率的に利用するため
 3. 収穫した稲を湿気から守り、ネズミなどの小動物による被害を防ぐため
 4. 洪水が発生した際に、集落の人々が避難する場所を確保するため
- 問4 1世紀半ば、弥生時代の日本（倭）にあった奴国の王が、中国の後漢の皇帝から金印を授けられた頃の世界の動向として正しいものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）
1. ローマ帝国が地中海周辺を統一し、パレスチナでイエスがキリスト教を創始した。
 2. 南アジアのインダス川流域でインダス文明が栄え、大きな都市が建設された。
 3. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始し、急速に勢力を拡大した。
 4. ヨーロッパでルターが宗教改革を始め、カトリック教会に対してプロテスタントが成立した
- 問5 弥生時代における「ムラ同士の争い」は、その後の日本の社会構造にどのような変化をもたらしましたか。当時の社会の流れとして最も適切な説明を選びなさい。（2024年 北海道公立入試 類似）
1. 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された
 2. 争いを鎮めるために、各集落が完全に独立したまま交流を断つ鎖国のような状態になった
 3. すべての人が平等に食料を分配する仕組みが作られ、身分の差が完全になくなった
 4. 争いを避けるために人々が再び移動生活に戻り、定住する集落が一時的に消滅した
- 問6 古代の日中関係をまとめた学習レポートにおいて、5世紀のヤマト王権による外交について記述する場合、その内容として正しいものはどれですか。（2025年 神奈川県公立入試 類似）
1. 「倭の五王」と呼ばれる王たちが、中国の南朝に使節を派遣し、朝鮮半島での軍事的な指揮権や自らの地位を認めさせようとした。
 2. 奴国の王が中国の後漢へ使節を派遣し、光武帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かって、北九州での地位を確立した。
 3. 邪馬台国の卑弥呼が中国の魏に使節を派遣し、「親魏倭王」の称号とともに金印を授かり、国内の小国連合の統制を強めた。
 4. 小野妹子が遣隋使として中国の隋へ派遣され、対等な立場での外交を求める国書を提出して、新しい官制や憲法を導入しようとした。
- 問7 弥生時代に大陸から稲作が伝わり、食料を蓄えることが可能になったことで生じた社会の変化について、最も適切な説明を選んでください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
1. 政府から農民へ平等に土地が割り当てられ、収穫した稲を税として納める制度が整った。
 2. 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。
 3. 表面に縄目の文様がある、厚手で黒褐色の土器が全国的に作られるようになった。
 4. ナウマン象などの大型動物を狩猟するために、人々は移動を繰り返しながら生活するようになった。
- 問8 弥生時代、稲作の普及によって余剰生産物が生まれると、富を蓄えた有力者が現れ、各地に小規模な政治集団である「国」が形成されました。当時の倭（日本）の有力な王は、中国の王朝から自らの地位を正式に認められることで、周辺諸国に対する権威を高めようとしてしました。西暦57年に、倭の「奴国」の王が中国の後漢の皇帝から授かった、その地位を証明するための品物として正しいものを選びなさい。（2018年 神奈川県公立入試 類似）
1. 「漢委奴国王」と刻まれた金印
 2. 稲荷山古墳から出土した鉄剣
 3. 仏像や経典
 4. 三角縁神獣鏡
- 問9 3世紀の中国の歴史書『魏志』倭人伝において、女王卑弥呼が統治していたとされる、当時の日本列島の呼称として適切なものはどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）
1. 倭国
 2. 邪馬台国
 3. 高天原
 4. 日本
- 問10 1世紀、3世紀、5世紀の倭（日本）の勢力が行った中国への朝貢について述べた文として、正しいものはどれか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）
1. 5世紀、倭の五王が魏へ使いを送り、朝鮮半島における軍事的な立場を認めさせようとした。
 2. 5世紀、奴国の王が南朝の宋へ使いを送り、金印を授けられた。
 3. 3世紀、邪馬台国の卑弥呼が後漢へ使いを送り、「親魏倭王」の称号を授けられた。
 4. 1世紀、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から金印を授けられた。
- 問11 弥生時代に大陸から伝わり、日本の社会を大きく変化させた稲作の広がりについて述べた文として、正しいものはどれか。（2023年 佐賀県公立入試 類似）
1. 稲作の普及により、それまで使われていた打製石器がすべて消失し、すべてが青銅器や鉄器に置き換わった。
 2. 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。
 3. 稲作は日本全土に均一に広まり、北海道や沖縄においてもこの時期に大規模な水田開発が行われた。
 4. 稲作が伝わった直後に大王（おおきみ）と呼ばれる強力な支配者が現れ、全国の開墾を命令した。
- 問12 紀元1世紀、倭の奴国の王が大陸へ使節を送り、後漢の皇帝から授けられたとされる金印について、その事実が記述されている中国の歴史書として正しいものはどれですか。（2023年 富山県公立入試 類似）
1. 「魏志」倭人伝
 2. 「宋書」倭国伝
 3. 「隋書」倭国伝
 4. 「後漢書」東夷伝

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ること で、自身の王としての地位を認めさせ、国内 での権威を高めようとした	当時の日本（倭）は多くの小国に分かれて争っており、各国の王は、強大な力を持つ中国の皇帝に貢物を捧げる「朝貢」を行いました。それに対して皇帝がその土地の支配権を認める（冊封）ことで、王は自国内や周辺の国々に対して自分の正統性や優位性を誇示しようとした。1世紀の奴国の王による外交も、こうした背景によるものです。
問2	答え 4 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落 間の争いが激化し、防衛や監視に有利だった ため。	弥生時代は稲作による余剰生産物が生じたことで、富の蓄積や階級の差が生まれ、各地で土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。瀬戸内海沿岸の山頂付近にある紫雲山遺跡のような高地性集落は、敵の動きをいち早く察知し、集落を守るための軍事的な拠点としての役割を担っていました。中国の歴史書に記された「倭国大乱」も、こうした激しい社会状況を裏付けています。
問3	答え 3 収穫した稲を湿気から守り、ネズミなどの小 動物による被害を防ぐため	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した米を長期間保存する必要が生じました。地面から床を離すことで風通しを良くして湿気を防ぐとともに、柱に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、食料を食い荒らすネズミの侵入を防ぐ工夫がなされていました。
問4	答え 1 ローマ帝国が地中海周辺を統一し、パレスチ ナでイエスがキリスト教を創始した。	紀元57年に奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かった1世紀頃、西方ではローマ帝国が地中海を囲む広大な地域を支配していました。また、同じ1世紀にはパレスチナでイエスによってキリスト教が成立しており、日本の弥生時代の動きと世界の古代帝国の形成や宗教の成立は同時期の出来事です。インダス文明は紀元前、イスラム教は7世紀、宗教改革は16世紀の出来事であるため、時期が異なります。
問5	答え 1 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと 呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された	土地や水をめぐる争いは、勝利した集落が敗北した集落を吸収・統合するプロセスでもありました。これにより、複数の「ムラ」が統合されて「クニ」へと大規模化し、その中心に王のような強力な指導者が現れることで、初期の国家形成へとつながっていきました。
問6	答え 1 「倭の五王」と呼ばれる王たちが、中国の南 朝に使節を派遣し、朝鮮半島での軍事的な指 揮権や自らの地位を認めさせようとした。	5世紀のヤマト王権（倭）では、「讃・珍・済・興・武」の5人の王（倭の五王）が、中国の南朝に次々と使節を送りました。これは当時の中国の歴史書である『宋書』倭国伝に記されています。彼らは、朝鮮半島の百濟や加羅（加耶）などに対する軍事的な指揮権や影響力を中国の皇帝に認めてもらうことで、国際的な地位を高めようとした。3世紀の卑弥呼は「魏」に、1世紀の奴国王は「後漢」に使節を送っており、時期と王朝の組み合わせを正しく把握することが重要です。
問7	答え 2 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって 、ムラの間で争いが起こるようになった。	稲作が普及すると、生産力の向上により食料の蓄え（余剰生産物）ができるようになりました。これにより、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれるとともに、稲作に不可欠な土地や水の利権をめぐって集落（ムラ）同士の争いが発生するようになりました。こうした争いを通じて、次第に多くのムラを統合する小国が形成されていきました。
問8	答え 1 「漢委奴国王」と刻まれた金印	稲作が広まった弥生時代には、食料の蓄えや土地を巡って「争い」が起きようになり、集団を統合するリーダー、つまり「王」が現れました。当時の中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、倭の奴国の王が後漢の光武帝に使いを送り、金印を授かったことが記されています。この金印は江戸時代に現在の福岡県（志賀島）で発見されており、当時の日本が中国の王朝と外交関係を持っていたことを裏付ける重要な資料です。
問9	答え 1 倭国	中国の歴史書では、当時の日本列島やそこに住む人々を「倭」と呼び、その国々を指して「倭国」と表現しました。卑弥呼が都を置いた具体的な場所は「邪馬台国」と記されていますが、日本列島の勢力を総称する当時の呼び名としては「倭国」が用いられています。
問10	答え 4 1世紀、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り 、皇帝から金印を授けられた。	1世紀には、九州の奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かりました。3世紀に魏へ使いを送ったのは邪馬台国の卑弥呼であり、5世紀に南朝の宋へ使いを送ったのは倭の五王です。それぞれの時代における「倭の勢力」と「中国の王朝」の組み合わせを正確に把握する必要があります。
問11	答え 2 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がっ たが、当時の気候や環境の影響もあり北海道 や沖縄を除く地域に定着した。	大陸から伝わった本格的な稲作は、九州北部から始まり、次第に本州、四国、東北地方へと広がっていきました。しかし、冷涼な気候の北海道や亜熱帯の沖縄にはこの段階では定着せず、それぞれの地域で独自の文化が営まれました。大王の出現は後の古墳時代のことです。
問12	答え 4 「後漢書」東夷伝	紀元57年に倭の奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かったという出来事は、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。3世紀の邪馬台国や卑弥呼について記された『魏志』倭人伝（『三国志』の一部）と混同しやすいため、時代背景と歴史書の対応を正確に理解しておく必要があります。